



Until we are all equal

希望の物語

人身取引に立ち向かうコミュニティ
を後押しする

A Plan International Nepal campaign

PROTECT

PROTECTION, TRACKING, EDUCATION & TRANSFORMATION

2019-2023

出版物について

本書は、2019～2023年に実施されたプラン・インターナショナル・ネパールのPROTECTプロジェクトの取り組みと影響に焦点を当てた人びとに関心を寄せる物語をまとめたものである。

内容は主に観察談と主要関係者へのインタビューからなる。

背景、プロジェクト、アプローチに関する包括的な詳細については、物語セクションの結論に続く最後のページを参照されたい。

サバイバーとのインタビューはすべて、彼らの完全な同意のもと、安全な場所で秘密厳守で行われた。更に、学生やユースアンバサダーを含む未成年者へのインタビューは、事前の書面による同意を得て実施された。

免責事項

©All rights reserved, 2023. すべての内容および写真はプラン・インターナショナル・ネパールの独占的所有物であり、書面による許可なく掲載することを禁じます。

目次



序文:		
ネパールにおける人身取引撲滅キャンペーンの歩み	5
希望の物語	6
2度目のチャンス	8
ユース・エンパワーメント	19
棒と石	45
コミュニティシステムの強化	57
結論		
キャンペーンは続く	70
PROTECTプロジェクト		
プラン・インターナショナル・ネパールの人身取引撲滅キャンペーン	76
背景		
ネパールにおける人身取引	83



ユースアンバサダーが人身取引の危険性について啓発する路上劇を上演
©Plan International Nepal

序文

ネパールにおける人身取引撲滅 キャンペーンの歩み

人身取引撲滅を目指すPROTECTプロジェクトの最終章を迎えるにあたり、私は深い感謝と達成感で満たされています。プラン・インターナショナル・ネパールは2019年、ネパールのバンケ、スンサリ、マクワンプル郡の脆弱なコミュニティを人身取引のリスクから救い、力を与え、保護するという唯一の使命を持って、歩み始めました。

本書は、受益者、ユース、女性、子ども、そして私たちの取り組みに不可欠な存在となった多様なステークホルダーのレジリエンス、強さ、そして語られなかった物語の証です。読み進めると、逆境を乗り越えた勝利、弱さに直面した勇気、集団行動の変革力といった物語に出会います。

2019～23年にわたるこのプロジェクトの歩みは、共同作業の賜物です。パートナーシップが築かれ、コミュニティが強化され、人生に前向きな影響がもたらされた物語です。本書には、一時は声もなく疎外されていると感じていた人びとの声が綴られています。

このプロジェクトの礎のひとつは、ユースの積極的な参加です。彼らは自覚を持つようになっただけでなく、コミュニティに対する深い責任感を抱いています。本書では、ユースアンバサダーたちの物語が随所に登場し、彼らの個人的な成長だけでなく、人身取引に対する啓発への取り組みを紹介している。彼らの継続的な提唱活動は、このプロジェクトによって始まった反人身取引活動の持続可能性を証明するものです。

更に、私たちの協力的なアプローチは、政府関係者やその他の主要パートナーの所有という形で実を結びました。プロジェクトのある側面を継続するという彼らの約束は、私たちがともに作り上げた影響の持続可能性を強調しています。

革新への取り組みとして、私たちはFacebookの Messengerで作動するAI生成ツールであるMaya Chat Botのような高度なデジタル技術を導入し、ユースの特定のニーズに合わせて情報を調整しました。ユースが人身取引に関して最も脆弱な集団であることを認識し、この革新的なアプローチによって、私たちはユースを支援し、エンパワーメントの後押しができました。

人身取引との闘いに対する私たちの取り組みは、このプロジェクトの枠組みを超えたものです。搾取から逃れ、すべての子ども・女性・コミュニティが繁栄できる世界を創るといふ、プラン・インターナショナル・ネパールの継続的な努力の織り成す取り組みなのです。

献身的なチーム、現地の実施パートナー、そして変化を受け入れたレジリエントなコミュニティの皆さん、この取り組みの原動力となってくれたことに感謝します。このプロジェクトに別れを告げるとき、私たちは学んだ教訓と築かれたつながりを引き継いでいきましょう。私たちは共に持続的な影響をもたらし、その努力の反響は、今後何年にもわたって、私たちが触れた人びとの生活の中に響き渡ると確信しています。

連帯して、

Ram Kishan、国統括事務所長
プラン・インターナショナル・ネパール



ユースアンバサダー会議では、コミュニティ啓発キャンペーンについて意見を共有した。
©Plan International Nepal/Naresh Newar

プラン・インターナショナル・ネパールのバンケ、マクワンプル、スンサリにおける PROTECT プロジェクトから生まれた、影響力のある物語の集大成へようこそ。本書は、ユースアンバサダー、コミュニティ、教育者、保護者、政府関係者の役割を強調しながら、人身取引撲滅におけるプロジェクトの変革の道のりを紹介する。

レジリエンスとコミュニティ参加が刻み込まれたこれらの物語は、政府とNGO双方にとっての道標となっている。これらの物語には、成功したキャンペーン、感心する取り組み、協力的な努力が凝縮されている。これらは集団行動の力の証であり、ネパール全土で同様のキャンペーンを展開するための道筋を示すものである。

これらの証言では、コミュニティが積極的に参加することで、プロジェクトの成功にどのように貢献したかを見ることができる。彼らの参加と献身は、特に人身取引の危険にさらされている子どもやユースの保護において、草の根の取り組みが制度を強化する可能性を示している。これらの物語が波及効果呼び起こし、搾取が存在しないネパールを育み、保護が共有の責任となるようにするのだ。

1

希望の物語

2度目の チャンス

サバイバーの体験談は、インドの歓楽街に人身取引されたネパールの女の子や女性が直面する虐待、性暴力、著しい搾取の恐怖を思い起こさせる。PROTECTプロジェクトの支援により、サバイバーは立ち直り、コミュニティや家族に再統合される第2の人生のチャンスを手に入れている。

プラン・インターナショナル・ネパールのPROTECTプロジェクトの支援により、ネパールのサバイバーが人生をやり直す物語をLeonardo AIアプリを使ってAIで作成したイラスト。

サイバパーの体験談を記録するのは難しい。なぜなら、私たちはしばしば彼らのつらい経験について質問し、振り返らせるという困難に直面するからだ。しかし、彼らの話は問題の深刻さを理解するのに役立つ。これは、名前と身元を匿名とするあるサイバパーの物語である。この物語では、彼女を「Samikshya」という仮名で呼ぶことにする。

Samikshyaは両親と暮らしていた。経済的には苦しかったが、彼らは充実した静かな生活を送っていた。ある日、見知らぬ者が村に来て、Samikshyaの姉が重い病気にかかっており、Samikshyaにインドのプネーまで来てくれるように言っている、と話した。

16歳になったばかりのSamikshyaにとって、その見知らぬ者は家族に関する情報に詳しく、驚くほど説得力があった。当初、彼女の父親は彼女を見知らぬ人物に預けることに抵抗したが、母親はインドに身寄りのない長女のことを心配していた。

Samikshyaは荷物をまとめ、父親がゴークプル駅まで送ることになった。彼はそれが娘に会う最後の機会になるとは知らず、危険な状況へ娘を送り出すこととなった。

「列車に座っていたことは覚えています、どうやってプネーに着いたかは覚えていません。思い出せるのは、若い女の子でいっぱいの子供部屋にいたこと、そういう部屋がたくさんあったことだけです」と彼女は語る。彼女は泣き出し、しばらく言葉が出なかった。

私たちはインタビューを止めるべきかどうか尋ねたが、彼女は構わないと言った。

彼女は売春宿に行き着いたが、そこが何なのか全く知らなかった。彼女と同じような人、彼女よりもっと若い人が大勢いたのを覚えている。彼女は姉もそこにいると思い、自分を連れてきた男を探したが、もうすでに宿から去っていた。宿にいた女の子は、あの男は悪名高い人身取引業者だと教えてくれた。彼女は泣きながら助けを求めたが、彼女たちは何もしてやれず、ただ座っているだけだった。そんな彼女の姿を見て、みんな心を痛め、自分たちが最初にここに連れてこられたときを思い出したという。

「彼女たちは『あなたのお姉さんは知らないけれど、あなたも私たちと同じように売られてきたのよ』と言いました。私は泣きわめきましたが、逃げることはできませんでした。売春宿の主人は私を部屋に押し込むと、ドアを閉め、それ以来、私はドアの外に出ることができなくなり、ドアの外からしか日の光を見ることができなくなりました」と彼女は語り、長い間沈黙した。

長い年月の後、彼女は脱出を助けてくれた男性と出会い、結婚した。しかし、娘が生まれた後、夫は行方をくらまし、彼女は故郷に帰る方法もわからず、生活のために別の売春宿に入るしかなかった。こうして彼女は17年間、病気になるまで売春宿で働かされた。麻痺も患った彼女は、売春宿の主人にとってもはや何の価値もなかった。彼女はネパールのNGOに助けを求め、家に帰ることができたが、そこはもう彼女にとって居場所ではなくなっていた。

両親はすでに亡くなっており、彼女には収入がなかった。彼女は弟に支援してもらって生活していたが、弟もまた困窮した生活を送っていた。

「家で両親の手伝いをし、牛の放牧をするのが幸せで、貧困の中にあっても、私は健康な女の子で、平和に暮らしていました。あの人身取引業者は私の青春を壊しましたが、今は娘のためによりよい生活を送れるよう懸命に働きたいと思っています。」

Samikshya、人身取引のサバイバー

無垢な人間の人身取引を目撃する

Samikshyaは、彼女のコミュニティの若いネパール人が自由に人生を歩みながらも、若くして結婚を急ぎ、より良い生活を求めて家を出ていく姿を見て、心配している。

「今の女の子はずっと賢いし、教育も受けていますが、それでも私は、彼女たちがどんな罠にはまるのかと心配です。ブネーにいたとき、それを目の当たりにしました」、と彼女は言う。何年も労働を強いられた彼女は、何人もの女の子がウェディングドレスを着せられ、売春目的で売られるために運び込まれるのを目撃した。彼女は、女の子たちが自身の親族に裏切られた例を鮮明に思い出す。

ある時、ある男が未成年の女の子を連れてきた。その女の子は、連れてきた叔父に父親代わりに育てられていた。

「彼女が、叔父を泣きながら探していたのを覚えています。彼女の姿は、連れてこられた時のことを思い出させました。『あなたの叔父さんはもう戻らない。私たちと同じように売られたのよ』と言いました」。

Samikshyaはまた、女の子が実の兄弟や夫、親戚に売られるという悲痛な現実も目の当たりにした。彼女は、人身取引業者が用いる狡猾な手口により、今も女の子たちが人身取引の犠牲になっていると確信している。

Samikshyaは、NGOや政府の努力にもかかわらず、既に搾取的な状況に売られた人身取引の被害者、特に若い女の子を救出することは、依然として困難な作業であるという不安を抱いている。彼女は、NGOのネパール人代表がインド警察を連れてきて、家宅捜索を行ったものの、彼女や他の女の子たちは見つからないように巧妙に隠されたことがあると話す。

「17年ぶりに故郷に戻りましたが、若かった頃を思い出すことさえできません。私の人生は良い方向に変わりましたが、本当のことを誰かに知られることを恐れています。私がこの話をするのは、プラン・インターナショナル・ネパールに支援を受けた恩があり、彼らを信頼しているからです」と、Samikshyaは話す。

新たな始まり

訪れたSamikshyaのヤギ農場では、ヤギの元気な姿を誇らしげに見せてくれた。彼女の弟が農場用地の建設に関わったことで、人件費や建設費を追加して出さずに済んだ。

彼女はPROTECTプロジェクトの支援を受けた一人で、信頼できる情報源から彼女の苦境を聞いたチームが支援を行った。

「プロジェクトの人たちが訪ねてきて、私が生き延びられるようにあらゆる支援をしてくれました。私のことを気にかけてくれる人がいると知ってとても嬉しいです」と、Samikshyaは言う。

彼女はマクワンプルのプロジェクト事務所から、支援と助言を受けた。

プロジェクトでは、ヤギの飼育、会計、事業計画のスキルを向上させるための研修が行われた。また、自分のヤギ農場を始めるための着手金も受け取った。

「インドから帰国したとき、私はネパール出身であることを証明する書類を持っていなかったのですが、助けてくれたのはプロジェクトの人たちでした」と彼女は言う。結婚証明書も両親の情報も持っていなかったため、市民権を得ることができなかったという。

プロジェクトチームは地元政府関係からの支援を取り付けた。

「現在、私は娘の市民権と出生証明書の両方を手に入れ、高等教育を受けられるようになりました。私は娘に良い人生を送ってほしいし、彼女を守っていくつもりです」と、彼女は娘と彼女自身に前向きな気持ちを抱いている。

プロジェクトは、彼女が毎月6,400ルピー（48米ドル）の支給を受けるための障害者カードなど、行政サービスへのアクセスも可能にした。

コミュニティ支援による 社会復帰



人身取引のサバイバーをコミュニティや家族に復帰させるのは、しばしば困難なことである。彼女たちの体験談が明るみに出れば、迫害を受けることを依然として恐れているからである。PROTECTプロジェクトの支援を受けているサバイバーのほとんどは、身元を明かさないう求めている。プロジェクトはまた、彼らの家族に対しても秘密保持を保証している。

この姿勢は、プロジェクトがサバイバーの信頼を獲得し、彼らが自らの人生を歩み、第2のチャンスを得ることを可能にする助けとなった。Samikshyaは、いかにして人生を立て直すことができたかを示す一例である。

プロジェクトの基盤のひとつは、人身取引やジェンダーに基づく暴力(GBV)のサバイバーに、収入創出と事業計画の技能提供を目的とした取り組み、Enterprise Your Life (EYL)研修である。EYL研修は、8日間の集中合宿研修を受ける候補者を特定するために、慎重な選考、家庭訪問、ベースライン調査が行われる。

このプロジェクトは、サバイバーに技能を身につけさせるだけでなく、更に一步踏み込んでいた。研修セッションから生まれた事業を立ち上げるための種資金を提供し、支援したのだ。各サバイバーにとって、これは単なる投資ではなく、新しい生活を始めるための信認の象徴であった。

参加者は、ケースに応じて1万5,000~4万ルピー(112~300米ドル)の着手金を受け取り、各自の事業を開始するのに役立てた。これまでに50人以上のサバイバーが支援を受け、仕立て屋からヤギの飼育まで、さまざまな事業を立ち上げ、自給自足の道を歩み始めている。

AI生成の画像は実在の人物を描いたものではない。

本プロジェクトは、訓練を通じてサバイバーの能力を高め、経済的自立に必要な技能を身につけさせることを目的にしている。その後のビジネススキル研修では、実現可能な事業計画が策定された。

「プロジェクトがあらゆる支援をしてくれて、今ではヤギ農場を持つことができました。お金を稼ぐのは大変ですが、安定した生計を立てられるようになり、うれしいです。生まれ変わったような気分です」と、Samikshyaは言う。

プロジェクトはサバイバーに実質的な支援を提供し、彼らが効果的に事業を立ち上げることを可能にした。例えば、プロジェクトでは、プロの仕立て屋として訓練を受けたサバイバーに、着手金だけでなく、ミシンやテーブル、椅子といった、仕立て屋を始めるのに必要な道具の購入資金も提供した。

このプロジェクトからの投資は、かつて夫からの虐待に苦しめられ、現在はお茶とお菓子の店を繁盛させているスンサリのRumila（匿名）のような家庭内暴力のサバイバーへの支援に影響を与えるのに役立っている。家庭内暴力のサバイバーから小規模経営者になった彼女の経験は、サバイバーたちの希望でもある。

このプロジェクトの包括的な姿勢は、研修や支援にとどまらない。積極的に提唱活動を行い、地方政府との会合を開き、収入創出プログラムとの連携を図っている。

暴力のサバイバーから起業家へ

「私は、PROTECTプロジェクトが提供した技能訓練によって、村で小規模なビジネスを成功させ、家族を養っています。学業を中断せざるを得なかった私は、アルコール依存症の男と結婚し、その男からの暴行を受ける日々を送っていました。私は両親が貧しいにもかかわらず、両親にお金をねだるようになりました。

私は離婚することを決めました。離婚し、息子を連れて実家に戻りました。両親は彼ら自身の問題に直面しており、私が必要としていた支援を提供することはできませんでした。私のコミュニティで女性が働ける場所は、インドのシリグリでした。息子に良い教育を受けさせようと思った私は、息子を友人に預け、シリグリで仕事を探すという選択をしました。

しかし、プロジェクトの5日間の能力開発研修に参加し、自分のビジネス能力を高めてから考えが変わりました。自分のビジネスに対する自信が増したのです。村の中でお茶やお菓子を売る小さな商売から得られる収入で、息子の明るい未来のための教育を支えることができると確信しています。これは幸せと希望をもたらし、私の運勢を変えました。」

Rumila、家庭内暴力のサバイバー

その目的は、自治体が提供する助成金や機会を通じて、サバイバーのための持続的な財政支援を確保することである。

スンサリ出身のBijuli Devi Shahは、「この研修でビジネスに関する見識と、自分でビジネスを行うための技能を身につけることができました。この支援は、私の経済状況を改善するのに役立つと思います」と述べた。

マクワンプルでは、人身取引のサバイバーである Subrita が、EYL の研修を通して起業を実現した。このプログラムは、単に技能を授けるだけでなく、再発見と力づけの道程でもあった。新たな信念を抱いて、彼女は自身のためだけでなく、コミュニティの女性の模範となるために、仕立て屋事業を計画した。

「自分のビジネスを始めるという夢が叶いました。仕立て屋を始めるつもりです。私は真摯に事業を運営し、社会の他の女性の模範となるつもりです。プロジェクトにとっても感謝しています」と Subritaは言う。

社会復帰の課題：現在進行中の闘い

このプロジェクトの提唱活動は、社会の認識を変え、サバイバーのコミュニティ復帰を受け入れ、支援する余地を作ることにまで及んでいる。だが、サバイバーが自立への第一歩を踏み出しても、社会や家族への再統合は依然として難題である。人身取引されたサバイバーの多くは、情報開示よりも沈黙を選び続けている。排斥や社会的批判を恐れ、彼らは匿名の中で生きている。

サバイバーに経済的な力を与えるというプロジェクトの成功は希望の光だが、彼らを受け入れようとしない社会の姿勢は、彼らにとって依然として障害となっている。Samikshyaや多くの人身取引サバイバーがヤギの牧畜事業を思い描いているときでさえ、彼女たちは、自身のコミュニティに対して常に恐怖を感じて生きている。情報開示の恐怖は、単に個人的な苦闘というだけでなく、彼らの苦境に対するより大きな社会的無関心の表れなのだ。

社会的欠点：繊細さの必要性

人身取引と闘い、サバイバーを支援する組織として、困難な課題は彼らの努力にあるのではなく、未だにサバイバーの話を聞きたがらない社会構造にある。被害者であるにもかかわらず、Samikshyaのような人は、自らの物語を明らかにすることで、更に孤立してしまうのではないかと恐れている。

実名を公表することに消極的なのは、選択ではなく、彼らを受け入れる準備ができていない社会に対する防衛なのだ。サバイバーがコミュニティの評判を落とすという一般的な感情は、共感性の根本的な欠如を反映している。それは個々のサバイバーを超えて、社会的感受性の根幹にまで及ぶ集団的失敗である。

人生を立て直す： サーカスのサバイバーが起業家 として成功するための支援

Rabina (匿名) はインドのサーカスで育った。家庭の経済的事情により、彼女は学校に通うことができなかった。彼女の父親はサーカスの小人芸人として20年活動していた。父親が若くして亡くなった後、彼女は父親の代わりにサーカスで働くことを余儀なくされ、ロープを使った自転車スタントや体操スタントなど、命の危険がある難しい芸をこなさなければならなかった。

「さまざまな困難な演技を引き受けても、収入は月に400ネパール・ルピー（約3米ドル）のわずかなものでした。母と弟妹を養うために、私は命をかけていました」とRabinaは言う。

まだ10歳のRabinaが直面する苦難に耐え切れず、母親はサーカスから逃げ出した。二人の娘を連れてネパールの故郷に戻った。Rabinaを学校に通わせることができた。しかし、サーカスで働いていた過去によって、逃げた先で差別を受け、生活は困窮した。

Rabinaは年頃になってから結婚したが、苦労は続いた。夫は運転手として働いていたが、収入は非常に低かった。手伝いたくても、彼女には学歴もなく、訓練も受けていなかった。そんな時、同じくサーカスのサバイバーである友人からEYLのことを聞いた。彼女は、PROTECTの現地実施NGOパートナーであるRural Awareness and Development Organization Nepal (RADOネパール)を通じて、技能研修を受けることになった。

この研修は彼女に事業経営のアイデアを与え、また自分の店を持つ意欲をかき立てた。8日間の研修は効果的で、彼女は起業のための事業計画について学んだ。プロジェクトの指導の下、彼女は事業計画を作成した。4万ルピー（300米ドル）をプロジェクトからの種資金として受け取り、食料品とChatpatey（ネパールの有名な屋台スナック）の販売を始めた。彼女は1日に5,000ネパールルピー（38米ドル）を売上げるようになった。

彼女の夫はパートナーとして働き、2人は1日500ルピー（3.8米ドル）の貯金を地元の協同組合に預けている。娘も学校に通わせている。

「8日間の研修プログラムは私の人生を変えました。今では経済的に自立し、安心しています」と24歳のRabinaは言う。「私たちの区には、インドからの元サーカス関係者が大勢いますが、経済的な不安がないため、戻ることを恐れています。」

しかし彼女は、PROTECTの助けによってサバイバーの生活を立て直すことができると信じている。彼女は、彼女の友人と自分自身がEYLの研修の助けを借りて良い生活を始めた例を話してくれた。彼女たちはまた、コミュニティの他の多くの女性の模範となっている。

結論：鎖を断ち、心を癒す

サバイバーがPROTECTのようなプロジェクトを通じて起業に取り組むとき、真の挑戦は単に技能を身につけることではなく、彼らの沈黙を永続させる社会の障壁を取り払うことにある。Samikshyaのようなサバイバーがヤギ牧場を始めるなど、新しい生活を始めようとするとき、社会もまた変化の岐路に立たなければならない。

「女性、男性、第3のジェンダーを含むサバイバーの社会復帰には、彼らの生活を再建することが非常に重要です。自治体には、彼らを保護するためのサービスセンターがあるべきです」と、マクワンプル・ガディ自治体の女性・子ども・社会包摂課の前課長であるMandira Thapaは言う。彼女は、サバイバーは犯罪者ではなく、いかなる犯罪や罪も犯していないことを、社会に伝えていく国の役割の重要性を強調する。

サバイバーたちに第2のチャンスを提供するこのプロジェクトは、Samikshyaのようなサバイバーが再び社会復帰できる道筋を示し、キャンペーンを続けることで、彼らのレジリエンスの物語を受け入れ、彼らに希望を与え、救済を提供する手助けをすることが期待される。



このAI生成画像は実在の人物を描いたものではない。





ユースキャンペーン担当者がPROTECTプロジェクトの重要な戦力となった
©Plan International Nepal

2

ユース・エンパワーメント

ユース動員は、プロジェクト実施を通じて重要な強みとして浮かび上がった。プロジェクトは、多様な背景や経験を持つ相当数のユースアンバサダーの育成に成功した。彼らは、人身取引、危険な移住、家庭内暴力、早すぎる結婚、ジェンダー差別に反対するキャンペーンを積極的に展開し、コミュニティで力を持つユースリーダーへと成長した。この力づけは、暴力、早すぎる結婚、人身取引、児童虐待などの事件に対処するため、コミュニティ住民がユースアンバサダーに相談する準備が整っていることから明らかである。このプロジェクトの目覚ましい功績は、ユースリーダーの活気あるネットワークを構築したことである。

A close-up portrait of a young woman with dark hair tied up in a bun, smiling widely. She has a gold nose ring and is wearing a black top. The background is a blurred green outdoor setting. A yellow graphic consisting of several overlapping curved lines and a circle is overlaid on the image. The Japanese text '若き戦士たち' is written in white on a yellow brushstroke background in the upper right corner.

若き戦士たち

Rejinaは多くのユースアンバサダー同様に、勇敢なロールモデルに変身した。
©Plan International Nepal/Naresh Newar

Rejinaは、深く根付いた有害な慣習に対する絶え間ないキャンペーンのために、**数え切れないほどの殺害脅迫を受けてきた。**それでもなお、彼女は人身取引、早すぎる結婚、奴隷労働、GBVなど、家庭、学校、コミュニティにおける子どもに対するあらゆる形態の搾取や暴力に反対し、粘り強く訴え続けている。

マクワンプル郡で、Rejinaはユースの提唱活動の物語を再構築する強大な力として頭角を現している。経営学の学士号取得を目指す大学生である彼女は、早すぎる結婚、人身取引、女性に対する暴力との闘いにおいて力強い存在である。ユースアンバサダーとしての彼女の4年間の旅は、勇気とレジリエンス、そして揺るぎない社会変革の追求の証である。

「多くのユースが早すぎる結婚や、児童労働を強いられ、オンライン詐欺の被害に遭っているのを目にして、私は変化をもたらす、すべての社会的害を変えたいと思ったのです」と、Rejinaは振り返り、内気な10代から熾烈な運動家へと成長する過程で、PROTECTプロジェクトが変化をもたらしたのを認めている。

ユースアンバサダーの第1期として参加したことが、コミュニティにおける彼女の役割を再定義する変革の旅の始まりとなった。「PROTECTプロジェクトが始まって以来、私は彼らとともに提唱者として、また運動家として活動してきました」と彼女は述べ、この活動への献身を強調した。

プロジェクトのエンパワーメントの訓練を受けたことは、Rejinaの提唱活動の礎となった。人身取引と早すぎる結婚の複雑さについての理解を深めた彼女は、積極的に問題に取り組んだ。「私をもたらした変化とは何か、私はどんな役割を果たしたのか」と、彼女は振り返り、早すぎる結婚というデリケートなテーマを取り上げたときに直面した疑念や脅しについて語った。逆境にもかかわらず、Rejinaの粘り強さと、プラン・インターナショナル・ネパールの社会的行動変容コミュニケーション(SBCC)セッションを通じた保護者教育によって、考え方は徐々に、しかし大きく変化していった。

「特に母親たちは、私が教育を提供した後、声を上げられるようになりました」とRejinaは述べ、セッションの変革的影響を指摘する。最初は家族内の抵抗だけだったが、積極的な支援に変わった。「今では私の両親も、早すぎる結婚の話を知ると、私に行動を起こすよう求めてきます」と、彼女は家庭内の状況の変化を語っている。

人身取引の過酷な現実を伝えるため、彼女は視覚的な物語を用いたSBCCセッションを行なって、変化を巻き起こしている。

ビデオシリーズ、MayaとUdaya:

プラン・インターナショナル・ネパールのSBCC戦略には、「MayaとUdaya」が登場するビデオシリーズがある。この非常に有益で楽しいシリーズは、社会規範を効果的に伝え、影響を与え、積極的な行動変容を促し、コミュニティの重要な問題に取り組むことを目的としている。MayaとUdayaは親しみやすい存在として視聴者の関心を引き、教育し、積極的な社会変革を促進するというプラン・インターナショナル・ネパールの広範な使命に貢献している。

Maya Chatbotは、プラン・インターナショナル・ネパールがTangible AIと提携して開発したAI技術を使った革新的なツールだ。ユース、6年生以上のユースを対象に設計されたMayaは、メッセージング・プラットフォーム上で視覚的物語を活用し、人身取引、早すぎる結婚、児童労働に関する重要な情報を伝える。対話を通じた教育的なアプローチにより、Mayaはユースを力づけ、社会問題や人身取引について啓発する上で重要な役割を果たすことができる。

「一本のMayaとUdayaのビデオが、子どもや私のようなユースに即座に影響を与えたのです」と彼女は語る。

6年生以上のユースとの関わりでは、メッセージングのMayaアプリを使って人身取引、早すぎる結婚、児童労働について教えるなど、彼女の適応能力の高さを示している。

彼女が尊敬されるアドボケイトとなったことは、このプロジェクトの一例である。Rejinaが参加した保護者教育セッションでは、息子と娘の差別や体罰といった根深い問題に取り組んだ。保護者はただ話を聞くだけでなく、積極的に子どもを育てることを学んだ。

しかし、危険がなかったわけではない。特に影響力の大きな子育てを考えるセッションを行った後、彼女は命の危険に直面した。しかし、彼女の決意は揺るがなかった。深刻な脅迫に直面した仲間のユースアンバサダーを支援するため、彼女は仲間を引き連れて仲間を保護し、警察の介入を求めたことで、加害者からの謝罪を引き出した。



人身取引の最新事情について母親を教育するユースアンバサダーのRejina。
©Plan International Nepal/Naresh Newar

Rejinaの友人からの通報により警察から警告を受けたことで、家族は婚姻可能年齢に達していない娘の結婚を阻止させられた。酸攻撃の脅威にさらされるなど、困難が待ち受けていたが、コミュニティの評価と家族の揺るぎない支援が彼女の決意を固めた。

Rejinaの影響力は緊急課題だけにとどまらない。かつては緊急時にかけるべき電話番号も人身取引の複雑さも知らなかったユースが、今では知識を身につけている。ユースアンバサダーのRejinaは、前向きな子育てのセッションを企画し、SBCCのセッションに村人たちを招き、公共啓発キャンペーンのために自治体と協力した。

プロジェクト終了後も、彼女の献身的な姿勢は揺るがない。「私たちを支援してくれるプロジェクトがなくても、私たちのコミュニティには社会問題が山積しているので、キャンペーンは続けます」と彼女は断言する。Gaun Palika(ネパールの行政地区のこと)の子どもネットワークを通じて参加して以来、Rejinaは積極的に取り組んでおり最初の脅迫でさえ彼女をくじくことはなかった。

ユースアンバサダーとしてのRejinaは、懸念を抱く大学生から勇敢なアドボケートへと変身を遂げた。彼女の活動は、早すぎる結婚や人身取引という惨事に対して、情報を深め、力をつけ、レジリエンスを持つコミュニティに貢献している。逆境に立ち向かい続ける彼女の物語は、単なる個人的な旅ではなく、社会的不正と闘うコミュニティの希望の光となる。

400 social warriors



「その中核にあるのはユースの力であり、400人超の献身的なユースアンバサダーが社会変革を提唱し、人身取引と闘う最前線に立つことで、彼らはプロジェクトの最大の強みであることが証明されています」とPROTECTのプロジェクスマネージャー、Anu Upadhyayは言う。長年にわたり、プラン・インターナショナル・ネパールの彼女と彼女のチームは、こうした若い変革者たちが、人身取引の問題を啓発し、コミュニティを力づける上で極めて重要な役割を果たしていることを目撃してきた。

バンケ、マクワンプル、スンサリの3郡すべてで、プロジェクトチームの指導により、ユースアンバサダーは、演劇公演、教育用ビデオの作成、交流会の開催など、革新的な方法を通じてリーダーシップを身につけることができた。

彼らの努力は、人身取引という差し迫った問題について、保護者や自治体を教育することにも及んでいる。

これらのユースアンバサダーは、コミュニティへの参加にとどまらず、開発計画の中で人身取引防止活動を優先し、それに応じて予算を配分するよう、政府に積極的に働きかけている。優れた統治と、予算編成や計画立案を含む政府制度に関する知識を備えた彼らは、変化を提唱するために適切な質問を巧みに投げかける。

警察との協力のもと、これらのユースは人身取引の危機に瀕している個人の重要情報を共有し、サバイバーの証言を支援し、人身取引業者に対する正義の追求に貢献している。法執行機関とのこのパートナーシップは、児童保護や人身取引の問題に取り組むだけでなく、教育や啓発のためにコミュニティを巻き込むことにも及んでいる。

「カづけられたユース、特にPROTECTプロジェクトによってユースアンバサダーに選ばれた者は、警察にとって必要不可欠な情報源となっています。人身取引や早すぎる結婚の危機に瀕した弱者を守るため、彼らは積極的に重要な情報を共有しています」と、バンケ郡警のDilsara Rana Chettri警部補は語る。

バンケは、ネパール南西部のカルナリ州とスドウルパシム州を結ぶ重要な国境地帯であり、主要な入国地点として、この2つの州のバルディア、ナワルパラシ、チトワンなどの地区から、仕事を求めて多くの女性が流入してくる。



「人身取引の深刻さを知らない人はまだたくさんいます。ユースアンバサダーは、人身取引の危険から身を守る方法についてコミュニティを教育する重要な情報を広める重要な役割を担っています。」

バンケ郡警のDilsara Rana Chettri警部補。
©Plan International Nepal/Naresh Newar

ユースはしばしば、インドと国境を接する西ネパールのバンケ郡南部にある国境地帯ルパディハで、取引業者による触手を伸ばされることがある。さらに、カルナリ・プラデシュ州の中山間地域からもユースが仕事を求めて移住し、学校が休みの間に国境を越えてインドに向かう。教育、仕事、金銭的な利益の約束が、こうした脆弱な子どもを誘惑し、しばしば手始めに映画鑑賞に誘うのだと彼女は説明する。

NGOとの協力は、地元警察の法執行に大いに役立っている。特に脆弱な子どもに関する警察の膨大な仕事量を考えると、NGOとの協力は警察にとって有益であった。



Ramesh ユースアンバサダーとバンケのユース仲間たち。
©Plan International Nepal/Naresh Newar

ユースアンバサダー： コミュニティの架け橋

「プロジェクトチームはコミュニティレベルの活動に積極的に取り組み、行動変容の取り組みを通じて人身取引に対する意識を高めています」とDilsara Rana警部補は言う。彼女は、このプロジェクトがコミュニティ住民に力を与え、特にユースが警察とコミュニティの間の調整役を担っていることを付け加えた。警察と緊密に連携している

Rameshは19歳のユースアンバサダーで、コミュニティと警察の橋渡し役となり、両者の良好な関係作りに貢献している。

「私たちは警察と緊密に連携している。状況によっては、警察当局に直接アプローチすることに不安を感じ、不安定な状況下で私たちにサポートを求めることもあります。

このような場合、私たちが介入し、警察と連携し、状況を伝え、適切な取り組みが行われるよう、フォローアップを徹底します」とRameshは言う。

彼は、ユースが全ての責任を背負うことはできないと認識している、と言う。情報を受け取ったら、それを速やかに関係当局と共有することがユースの第一の義務であると説明する。彼らは仲介役として、ユースアンバサダー、警察、地元代表の間を取り持つのである。

数々の功績の中でも特に大きかったのは、Rameshと彼のユースアンバサダー・チームが人身取引された女の子を救出し、家に戻すのを手伝ったことだ。

若い人身取引サバイバーの救出

彼の近所に、家計が苦しいという厳しい現実に向き合っている女の子がいた。貧困の重圧に苦しむ彼女の親は、彼女を働きに出すことが解決策だと信じていた。しかし、そのことによって、彼女は危険な状況に陥ってしまった。

家庭の経済問題と、彼女を働きに出すことの潜在的なリスクについての認識不足が、危険な彼女が危険に直面するシナリオを作り出した。彼女は学校の試験を欠席し、Rameshとその友人が尋ねたところ、親は彼女の欠席を妹との対立によるものだとし、彼女の就職を正当化した。

「ユースアンバサダーとして、私たちは、親が自身の困難や認識不足のためか、不注意にも子どもを危険にさらしてしまうケースに数多く遭遇しました」とRameshは言う。

このケースは、女の子が強制的に搾取され、虐待につながる陰惨なビジネスに巻き込まれたことを明らかにしたことで、暗転した。

非協力的な家族を前にして、彼らはネット上で徹底的な捜索を行い、法執行機関に助けを求めたが、すぐに結果は出なかった。そんなとき、女の子自身が、ユースの間で有名で大きなネットワークを持っているRameshに連絡を取り、悲惨な体験を語った。

バンケ・ユネスコとPROTECTネットワーク内の他の反人身取引NGOの支援を受けて、彼女をインドから連れ戻し、家族と再会させることができた。

「経済的な困難が今も続いていることから、私たちは彼女の家族のために仕事を見つける手助けをしました。現在、彼女は立派な収入を得ており、学士号を取得する傍ら、毎月2万ルピー（150米ドル）を家族のために仕送りしています」と彼は語る。

彼女の物語は、特に疎外されたコミュニティの人びとが経済的救済を求めて直面する困難な選択を思い起こさせる。それはまた、危険な移住というリスクを背負わざるを得ない過酷な現実を強調している。

ユースのロールモデル

Rameshは子どもの頃から積極的にユースリーダーとして活動しており、最初は子どもクラブのメンバーだった。転機となったのは、PROTECTの地元パートナーであるバンケ・ユネスコクラブの研修に参加したときだった。

当時のことを振り返り、彼は言う。「そのとき私たちは、仕事に誘われた子どもは人身取引の被害者であり、彼らの権利が侵害されていることを理解したのです。」知識を得た彼と仲間たちは、コミュニティの枠を超えた活動を始めた。

彼はまた、このプロジェクトが創設したユースアンバサダーの第1期生でもある。この4年半の間に、彼は地元コミュニティのユースと大人の双方から、また地元政府や警察関係者からも高い評価を得るようになった。

路上劇やSBCCのビデオは、関心を集め、地元コミュニティの人びとにポジティブな影響を与えた。

「これらのビデオを定期的に生徒に見せてから2ヵ月後、何人かの生徒が人身取引の危険にさらされていると連絡してきました。そして私たちは彼らの救出に成功したのです」とRameshは誇らしげに語る。

コミュニティの態度が一変したことは、変化の例として際立っている。「私に残酷な態度をとっていた人たちが、今では私を受け入れ、ユースアンバサダーとして敬意を示してくれるようになったことを知ると、とても嬉しいです」と彼

は振り返る。彼は、有害な社会的慣行に対するキャンペーンの中でも、早すぎる結婚の話や児童労働の搾取の話などがある度に、彼らが彼の介入に腹を立てていたことを思い出す。

ユースアンバサダーはキャンペーン中、命の危険にも直面する。例えば、彼の同級生が行方不明になり、彼女の親は、彼が彼女との関係を疑い、彼女のことを尋ねると、彼に暴力を振るった。彼らは彼女を結婚させ、インドに送り出していたのだ。婚姻不可年齢であり、インドに送ったという二重の危険がその女の子にはあったのだ。彼は彼女の身の危険を感じ、居場所を教えるよう求めた。

「私は彼らに子どもの権利侵害について話しました。これは早すぎる結婚の事例で、彼女は人身取引の危険にさらされている可能性があります。早すぎる結婚は犯罪であり、人身取引につながる可能性もあり、特に彼女がインドに連れて行かれる場合はそうだと説明しました」と彼は話す。近隣住民全員が彼を敵視し、暴行まで加えたが、それでも彼はキャンペーンを続けることを止めなかった。



ユースアンバサダーは、人身取引撲滅活動のために仲間をカづける。
©Plan International Nepal

ユースの主体性を生かした コミュニティへの関与

Rameshはユースの重要な役割を強調する。「年配の市民は知識があるはずですが、協調したり、行動を起こしたり、助けを求めて走り回ったりはしないかもしれません。ユースも本当の知識を持っているのですが。」テクノロジーに支配された時代において、彼はサイバー犯罪と闘い、弱者を人身取引から守る上でユースの重要性を強調している。彼の活動は、路上からデジタル領域にまで及んでいる。演劇大会、路上劇、Maya Chatbotを使ったオンライン・キャンペーンは、彼らの取り組みの幅広さを示している。

「たとえすべての人に直接会うことができなくても、オンラインプラットフォームを通じて情報を届けることができました」とRameshは述べ、時代の変化に対応することの重要性を強調した。彼の影響は大きく、今ではコミュニティが潜在的な問題の報告に積極的に参加している。「今では、見知らぬ不審な人物を近所で見かけ、このユースに興味を持っていて、人身取引に発展するのではないかと疑ったら、すぐに連絡してくれるようになりました」と彼は言う。

ユースキャンペーンへの自治体の支援

彼は、地元自治体からの支援を認識し、彼らの関与の重要性を強調する。「私たちの活動は、政府当局との良好な関係を育み、人びとは彼ら自身が私たちのコミュニティの一員であると感じています」と彼は語る。コミュニティと自治体との橋渡しをすることで、彼らの協力は子どもの保護問題の優先順位に変化をもたらすのに役立っている。

モデル資料センターは、PROTECTがコミュニティと自治体の間で始めた協力的な取り組みの一例である。Rameshはその影響について、「PROTECTの支援により、私たちは机を1台、その他にデスクトップパソコンを3台購入し、自治体は資料センター用の部屋を提供してくれました」と語る。

PROTECTの支援で必要不可欠な設備を備えたこの資料センターは、運営を合理化しただけでなく、ユース育成のプラットフォームとしても機能している。ユースクラブのネットワークのリーダーとして、彼は彼らの提唱活動の継続性を構想している。彼が自治体と協力することで、PROTECTプロジェクトの期間終了後も人身取引防止キャンペーンが継続することが保証されることが期待される。

「人身取引防止キャンペーンは、誰も人身取引の被害に遭わず、危険に陥らないようにするために必要であり、重要です」と彼は明言する。



Birendraは人身取引を生き延び、ユースアンバサダーとしてカづけられた。
©Plan International Nepal/Naresh Newar

人身取引のサバイバーから、カづけられたユースアンバサダーへ

Birendraがユースアンバサダーになった経緯は驚嘆させられる。彼は人身取引の危機に瀕していたが、インドから就職斡旋業者を装ってやってきた人身取引業者から間一髪で逃れた。国境を越えるにつれ、彼はこの旅全体と同行する男たちにかかなりの違和感を覚えていた。

彼はふと、SBCCのセッションで学んだことを思い出し、自分が置かれているリスクを見極めることができた。彼は人身取引業者に逃亡を疑われることなく、恐怖心よりも知恵を働かせて迅速な行動をとった。彼人身倍業者たちはBirendraが逃亡したことに気づき、追いかけてきた。彼はなんとか安全な場所にたどり着き、インドからネパールに向かう列車に乗り込み、ネパールの自宅まで無事にたどり着くことができた。

「SBCCのセッションがどれほど重要なものであるか、私はまったく理解していませんでした。なぜなら、PROTECTプロジェクトが主催した研修のとき、十分な注意を払わなかったことを覚えているからです。研修員が人身取引について話していたとき、私は頭がよくて教養があるから騙されないだろうと思いました。それは大間違いでした。でもその危険な時に、危険を特定するための重要な教訓のひとつを、ふと思い出したんです。それが私を救ったのです」と彼は言う。

危険な移住についてユースに力を与える ユース

Birendraは、プロジェクトによって訓練された何百人ものユースアンバサダーのひとりとなった。彼は、自分がいかにサバイブしたかを勇気をもって語り、ユースが常に大人、特に保護者を凌ぐことはできないという教訓を分かち合いたいと考えている。彼は、親が彼自身が仕事のために国境を越えようとするのを止めさせようと懸命だったことを思い出す。

「私は反抗的で、彼らの許可なしに飛び出しました。教育を受けたユースは、自らを賢く聡明だと思っていますが、私たちが学ぶべきことは、たくさんあります。PROTECTが運営するSBCCセッションのようなカづけプログラムは、私のような多くのユースがリスクを認識し、行動を起こすのに役立ちます」とBirendraは言う。

高校を卒業し、現在は学士課程で学んでいる彼は、PROTECTの現地実施パートナーであるCommon Platform for Common Goal (CoCoN)を訪れ、エンパワーメント研修を行い、ユースアンバサダーとして積極的なキャンペーンを展開できるように、懸命に努力した。

「国境を越えた危険な移住について知識が乏しいために、人びとが人身取引の被害に遭いやすくなっていること、また国内でもリスクに直面していることについて、多くのことを学びました。」



ネパールとインドの国境は、弱者を狙う人身取引業者に利用されている。
©Plan International Nepal/Naresh Newar

「見知らぬ人だけでなく、自分の親戚や隣人にも騙されるんです」と彼は言う。

Birendraは上級生の家庭教師でもあり、毎週必ず1回は、危険な移住や人身取引のリスクの特定、危険にさらされた場合の行動についての特別セッションを行っている。彼の取り組みは、生徒たちが率先して行動するよう促している。

「生徒たちは独自のグループを立ち上げ、人身取引の危険性や国境を越えることの危険性、その他多くの搾取の形態について、仲間に情報を共有しています」とBirendraは言う。

彼はすでにユースアンバサダーとしてフル稼働しており、海外で就職するためにインドや他の国々に行く友人たちを含め、多くの人びとを教育するために積極的な役割を担っている。

彼はネパールとインドの国境近くに位置するスンサリ郡の住んでいる。最近、彼は仲間のユースアンバサダーとともに、11歳の女の子を年配の男に人身取引される危険から救うことができた。彼女は継母からの暴力のために家を出ていた。

彼女の親戚は保護することを拒否し、仕事を見つけると約束した見知らぬ男に会ったが、彼女は逃れることができた。Birendraと彼女の友人は、地元のNGOや警察に連絡を取り、彼女を保護し、シェルターを提供した。



Dipendra Pathak、プロジェクトコーディネーター、RADO、マクワンプル©Plan International Nepal/Naresh Newar

「このプロジェクトは、自治体を支援し、各区の社会発展に大きく貢献しているユースアンバサダーの能力が認められるよう、積極的に働きかけました。」

Dipendra Pathak、プロジェクトコーディネーター、RADO、マクワンプル

ユースのカづけ： コミュニティ・メッセンジャー

Birendraのようなユースアンバサダーは重要な役割を果たしており、人身取引との闘いとサバイバーの保護において、ユースがいかに主導権を握っているかを示している。

「ユース、特に最も危険にさらされている年齢層は、人身取引の標的にされています。また、オンラインプラットフォームの最大の消費者であるユースを狙ったサイバー犯罪も増加している。そのため、このプロジェクトでは戦略的にユースに焦点を当て、彼らが重要な受益者であるだけでなく、人身取引に対抗する主要な推進役でもあると考えています」と、マクワンプル郡におけるPROTECTの現地実施パートナーであるRADOプロジェクトコーディネーター、Dipendra Pathakは説明する。

彼は、ユースの訓練はプロジェクトにとって重要な一歩であると強調する。マクワンプルだけでも168人のユースアンバサダーが養成された。彼らは重要な情報を伝えるパイプ役として、コミュニティ内で伝達役を果たしている。

ピアツーピアの教育を通じて、彼らは情報を発信し、仲間、後輩、先輩、そしてコミュニティの大人の意識を高めている。このプロジェクトの特筆すべき成果のひとつは、ユースをうまく動員したことである。「ユースアンバサダーの役割を強化し、その役割を更に正当化するために、プロジェクトは各自治体でそれぞれのユースアンバサダーを支持するという重要な役割を果たしました」とDipendraは言う。



ユースアンバサダーが路上劇を通じて人身取引撲滅キャンペーンを実施。
©Plan International Nepal

自治体によるユースアンバサダーの承認は、彼らが効果的なキャンペーンを継続できるよう支援し、それを可能にする責任を地方政府に求めることを目的としている。重要なことは、ユースアンバサダーがデータ収集において極めて重要な役割を果たし、政府の活動に不可欠な情報を提供していることである。要するに、彼らの参加は、人身取引と闘い、コミュニティ内の弱者の福祉を保証するための積極的なアプローチを促進するために不可欠なのである。

男の子もハイリスク： ユースアンバサダーが反撃に出る



スンサリの貧しい村の出身で、大学を卒業したSushilが人身取引撲滅を提唱するようになったのは、極めて個人的な理由からだ。彼の兄たちが人身取引の被害に遭うのを目撃したことが、この脅威と闘う引き金となった。SBCCのトレーナーの指導に触発され、Sushilはユースアンバサダーの役割を引き受けた。

当初は人前で話すことをためらっていたが、研修によって大勢の聴衆を前にしても堂々と話すことができるようになり、人身取引の危険性を明確に伝え、変化を提唱する新たな能力が養われた。

Sushilは、MayaとUdayaのビデオ、ポスター貼り、ステッカー・キャンペーンといった強力なツールを活用し、ユースとその保護者の双方に人身取引の危険性について教育することで、コミュニティに積極的に関与した。路上劇の上演を通じて、貧しい家庭のために仕事を見つけると見せかけた人身取引業者のウソにまみれた口約束について、人びとに紹介した。

「今でも、見知らぬ人が私たちの村にやってきては、良い仕事があると言い、罠にはまってしまう人がいます。人身取引業者は地元の間人であることが多く、複数の人手を介して被害者を移送し、カシミールなど強制労働の目的地まで連れて行くのです」とSushilは言う。

Sushilと彼の20人のユースアンバサダー仲間が企画した啓発キャンペーンによってコミュニティは行動を開始した。



ユースアンバサダーのSushilは、有害なリスクから子どもを守るために保護者と関わっている。
©Plan International Nepal/Naresh Newar

「村人は、インドで男の子を就職させようと誘い込む不審者を見つけると、すぐに私たちに知らせてくれます。私たちは、警察署や役所の女性担当部署に通報し、迅速に対処しています」とSushilは言う。

彼は、人身取引について知らないユースが村には多かったと振り返る。この話題はしばしば笑い話にされ、人身取引が関係するのは女の子や女性だけで、男の子や男性には無関係だと考えられていた。男の子は危険とは無縁であるという考えが一般的であったため、仕事を求めて村を離れることは気軽なことであった。彼が村で親子向けのSBCCセッションを開催し、男性が労働

や報酬のために搾取されたり、競馬事業で雑用をさせられたりするなど、人身取引の多面的な性質を明らかにしたことで、意識が変わった。

彼の家族でさえ、人身取引の影響を受けた。「兄たちは、もっといい機会があると思って村を出たのですが、思いがけずインドで強制労働をさせられる人身取引の被害に遭いました。列車のトイレで3日間、食事もとらずに耐え忍ぶという、私たちが予想もなかった過酷な現実と直面しました」と彼は振り返る。

彼の近所では、COVID-19によるパンデミックが発生する2年前に、悲惨な事件が起きた。カシミールでの強制労働のために、インルワの国境地帯から連れ去られた女の子や男の子は、移動させられている間に紛争に巻き込まれた。紛争と爆撃の中、助けを求めた彼らによって、人身取引の惨状が明るみにされた。Sushilと彼のユースアンバサダー仲間であるLaxmiは迅速に介入し、警察と役所に情報を伝え、彼らの救出に成功した。

しかし、継続的な啓蒙活動は依然として重要であり、特に12～13歳の男の子の間では、貧困や教育・就職機会の不足に追い込まれ、就職を希望するというリスクを冒し続けている。

Sushilは、このような脆弱なユースには、SBCCのセッションを活用し、人身取引に対抗する力をつけるための大幅な支援と、的を絞った研修が必要だと考えている。ユースアンバサダーによる人身取引撲滅キャンペーンは、特に経済的苦難や限られた機会のために大きなリスクにさらされているコミュニティの人びとのために、継続する必要がある。

「人身取引との闘いは現在も続いており、私の兄たちのように、より良い生活を求めて被害者になる可能性のある人を守るためには、持続的な取り組みが必要です」とSushilは言う。

彼は、キャンペーンに継続性を持たせるためには、政府がキャンペーンのための資源を与え、彼らを支援する必要があると考えている。



Asha Ram Chaudhary区長は、ユースアンバサダーと緊密に連携している。©Plan International Nepal/Naresh Newar

「ユースアンバサダーの勇敢な献身を称賛します。潜在的な危険に左右されない彼らの献身は、コミュニティに持続的な好影響を残しました」と、スンサリ郡バラचेトラ区のアシャ・ラム・チャウダリー区長は言う。

Asharamは、バラचेトラが人身取引の中継地であり、男の子が主に危機に瀕している、と説明し、ユースアンバサダーがどのようにして多くの男の子が強制労働のために人身取引されるのを防いだかを紹介してくれた。

「ユースアンバサダーによるこのプロジェクトは、コミュニティの行動を変えました。人身取引や児童労働の問題も解決しました」とAsha Ramは言う。

統治システムに関して権限を与えられたユース

「当初は20人のアンバサダーがおり、その多くが進学しましたが、初期メンバーから何人かが引き続き活動し、この活動を維持するために新しいアンバサダーを迎えました。彼らの変化を目の当たりにすることは、驚くべきことです」と、バラチェットラのCoCoNのコミュニティ動員担当者であるManju Thapaは言う。彼女はユースアンバサダーと密接に協力し、彼らが以前は発言を躊躇していたことに気づいていた。しかし、彼女とPROTECTプロジェクトのチームが研修を開始した後、彼らは自身の課題を明確に説明できるようになった。

研修セッションを通じ、政府の構造、役割、責任に対する理解を深め、政府各部門の具体的な役人とのネットワークづくりが行われた。この知識を武器に、彼らは人身取引防止活動の予算配分や計画立案に効果的な働きかけを行い、政府高官から尊敬を集めた。

大きな影響のひとつは、国の制度に対する理解が深まり、政府の支援やサービスに直接アクセスできるようになったことだ。ハラスメントや潜在的な危険に対して、どの緊急電話やホットラインに電話すれば直ちに援助が受けられるかを知ったのだ。この新たな知識は、彼らに自信と安心感を与え、知識を得ることによってエンパワメントされるとしたプロジェクトの意義を証明している。



コミュニティ動員担当のManjuは、ユースアンバサダーが果たす影響力のある役割に感銘を受けている。©Plan International Nepal/Naresh Newar

「ユースの行動の変化は注目に値します。当初、彼らはユース特有の無関心な態度で、内気で会話もぎこちなかったのです」と彼女は振り返る。しかし、ユースアンバサダー・プログラムは前向きな変化をもたらした。

彼らの優先順位を疑問視する役所職員から却下されたり、意欲を削がれても、彼らは耐えた。彼らの役所への集団的な働きかけは注目を集め、かつて彼らを退けた職員たちも、今では彼らの取り組みを認めるようになった。

これらの若いアドボケイトたちは、沈黙していたかつてから、主張するユースへと変わり、今や役所へ支援を求るようになったと、役所の職員たちは感心している。

かつては躊躇していたユースも、今では強力で活発な活動家となり、人身取引撲滅キャンペーンを強化するための情報や資源、行動を自治体に要求するようになった、とManjulは言う。

Sanishとマクワンプルの仲間のユースアンバサダーは、マクワンプルの自治体区で影響力のある役割を果たしている。「今では、子どもや女性、ユースに関する問題が発生すると、区役所が積極的に私たちに連絡をくれるようになりました」とSanishは言う。「当初は、ユース開発に関連する予算計画や開発計画は、自治体の代表や職員が自主的に行っていました」とも。



ユースアンバサダーのSanishは、政府が人身取引問題に関心を持つよう積極的に働きかけている。©Plan International Nepal/Naresh Newar

「しかし、私たちの影響力は大きくなり、今では日常的に私たちに相談し、さまざまな問題について意見を求められるようになりました」とSanishは語る。こうした問題に割り当てられる予算が大幅に増えたのは、彼らの一貫した圧力と効果的なロビー活動が影響している証拠だ。

ロビー活動および提唱活動

Sanishと彼の仲間は、地元政府の役人や代表者と緊密に協力している。定期的な交流プログラムや会議は、子ども、ユース、女性の保護と力づけを強化する方法について話し合い、戦略を練る場となっている。

「当初は無関心でしたが、私たちは粘り強く取り組みました。徐々に、政府関係者も私たちの目的の重要性を認識してくれました」と彼は言う。今では、ユースは政策立案や実施に積極的に参加し、協力関係を育んでいる。

予算の優先順位も変化している。従来、政府のシステムでは、市や区の予算は主に道路インフラや建物の建設に充てられていた。しかし、彼らの一丸となった努力によって、変化が起こっている。



人身取引と闘うために、現在では人身取引対策に特別に予算が割り当てられており、関連政策の策定によって補完されている、とSanishは言う。

彼は独りで活動しても、気づかれないと振り返る。彼は当初、当局の人身取引問題に対する無関心と注意不足の両方に直面し、そこで複数のアクティビストたちが連携するアプローチをとることにした。「一人のユースアンバサダーでは彼らの関心を引けないと認識し、私たちは集団で活動しました」とSanishは語る。

Sanishのグループは、粘り強いコミュニケーションと働きかけを通じ、人身取引に関する交流プログラムを実施し、政府の関与の必要性を強調した。「やがて、私たちの根気強さが功を奏し、

当局はより関与するようになり、他の業務よりも私たちの目的を優先するようになりました。彼らの熱意の高まりは、共同努力に対する共通の決意を反映しています」とSanishは説明する。

人身取引撲滅キャンペーンにおけるユースリーダーへの道のり

Sanishの人身取引撲滅の道のりは、PROTECTプロジェクトとの出会いから始まった。彼はこの4年半の間、自身のコミュニティにおいて人身取引への啓発と防止に重要な役割を果たし続けている。彼は当初、人身取引についてほとんど知識がなかったと振り返る。プロジェクトは彼に力づけの研修を提供し、効果的な運動家になるために必要な知識を身につけさせた。

彼は研修後すぐに、友人や隣人に情報を伝え始めたが、初め周囲の関心は低かった。それにもめげず、彼はユースアンバサダー・チームを結成し、人身取引についてコミュニティに啓蒙している。

彼らの焦点は単なる啓発にとどまらず、強制労働、児童搾取、早すぎる結婚、GBVなどの問題を包含していた。Sanishは人身取引の深刻さを効果的に伝えるために、MayaやUdayaのビデオのようなSBCCツールを活用した。コミュニティでは当初、懐疑的な見方が強かったが、粘り強さと、これらのアニメの物語の魅力的な性質が、明らかな態度の変化につながった。

ユース・ロールモデルによる キャンペーンの継続



SBCCセッションに参加するユース。
©Plan International Nepal/Naresh Newar

「コミュニティは問題を認めるだけでなく、私たちのキャンペーンへの参加を積極的に考えてくれるようになりました」とSanishは言い、人身取引や有害な社会的慣習に関わる加害者を告発することに恐れを感じてはいない。早すぎる結婚や子どもの搾取に関する情報はすべて、彼の情報提供者のネットワーク(ほとんどが彼の仲間であり、心配する保護者でもある)を通じて彼に届く。

彼がコミュニティで認められた重要な成果のひとつは、14～15歳の子どもが衣料品工場で働かされるのを防いだことだ。彼は警察に連絡し、即座に行動を起こして子どもを救出し、家族と再会させた。

彼の取り組みも困難を極めた。当初は無視され、言い負かされ、特に子どもを搾取する環境から子どもを救うことに抵抗を受けた。それでも彼は、安全な家の必要性や親へのカウンセリングの必要性を認識し、粘り強く活動を続けた。彼の活動は、コミュニティと政策双方を勇気づけるものとなった。

彼は、今後もキャンペーンを続け、多くのユースに彼らの活動に参加してもらいたいと考えている。PROTECTプロジェクトの支援で設立されたユース資料センターは、地元のユースが交流し、インターネットにアクセスし、Maya Chatbotのようなオンライン情報資源を利用するための拠点となった。

彼はまた、MayaとUdayaのビデオも定期的にも上映している。テクノロジーを活用し、彼らは情報ビデオを使ってユースに人身取引についての教育を続けている。Sanishはこれらの取り組みを継続する決意を固め、コミュニティの関与の重要性を強調している。

バンケ出身で現在10年生、17歳のHimaは、PROTECTプロジェクトによって力を得ただけでなく、SBCCのファシリテーターに変身した。セッションに参加する学生からファシリテーターになるまでのHimaの道のりは、ユースアンバサダーがコミュニティに与える影響の模範を示している。



ユースアンバサダーのHimaがSBCCセッションを行い、仲間を力づける©Plan International Nepal/Naresh Newar

ユースをSBCCファシリテーターに変身させる

Himaは彼女の話共有してくれた。「SBCCセッションで、私は人身取引について話してくれた先生に触発されました。今日、私は他の生徒のためにSBCCのセッションを開き、人身取引のリスクについての認識を広め、そのリスクを特定し軽減する力を与えています。これは、学習する立場から教える立場への転換です。」

ある強烈な出来事がHimaの決意に火をつけた。強制的に結婚させられ、教育を受けられなくなる可能性がある女の子が、彼女に助けを求めてきたのだ。女の子の家族からの脅迫にも屈せず、彼女はこの事件を役所に通報し、早すぎる結婚を防止したことの意義を強調した。この勇気ある行動が、コミュニティの他の子どもと知識を分かち合うというHimaの使命の始まりとなった。

特にソーシャルメディアの領域での自身の行動の変化を振り返り、Himaは魅力的な誘いにはノーと言うことの重要性を強調する。



ユースアンバサダーのHimalは、SBCCの研修でファシリテーターとしての技能を向上させた©Plan International Nepal/Naresh Newar

「もし誰かが、いい仕事があると言って私を誘い出そうとしても、私はきっぱりと断る。私は教育の価値や、学業を終えれば経済的に自立できることを理解しています。このことを知ってから、私は他の人たちにも、ネット上の見知らぬ人を信用せず、ハラスメントがあれば役所に通報するか、警察に通報するよう促しています。」

Himalは、彼女だけがエンパワーされた状況に満足していない。多くのユースをカづけたいのだ。そのため、彼女はファシリテーターになることを希望し、25人の生徒(女の子と男の子)にSBCCセッションを実施した。彼女が観察した生徒たちの行動の変化は、リスクを認識させ、それに立ち向かうことを教える教育の有効性を示している。「彼らは、特に旅行中に危険な状況や潜在的な脅威を識別することを学びました。」

「この知識は、搾取に抵抗し、警戒し続ける自信を彼らに与えました。」

挑戦的ながらも影響力のある出来事について、彼女は自身の地域で早すぎる結婚の事例に介入したことを挙げた。反発に遭い、お節介者のレッテルを貼られながらも、彼女は女の子の母親に早すぎる結婚に伴うリスクについて粘り強く警告した。母親が聞く耳を持たなかったため、彼女は勇気を出して警察を介入させ、結果、早すぎる結婚は防止された。逆境に直面してもなお忍耐強く取り組む彼女の姿は、ユースアンバサダーがコミュニティにもたらす強さと決意を浮き彫りにしている。

HimaのようなユースアンバサダーがSBCCのファシリテーターとして現れ続けるにつれ、PROTECTプロジェクトの影響は啓蒙だけにとどまらなくなった。PROTECTプロジェクトは、人身取引への警戒心を持つだけでなく、コミュニティを改善するために積極的に関与する、情報に精通し、エンパワーされた個人の世代を育成するのだ。

PROTECTのキャンペーンに継続性を与える

人身取引に反対するコミュニティ主導の活動の中心に立つJunaは、逞しく決意に満ちたユースアンバサダーであり、その活動への献身は彼女の人生と周囲の人びとの生活を一変させた。

「以前は、私たちは少数で、人身取引と積極的に戦っていましたが、今では60人の力強い仲間になり、早すぎる結婚をやめさせるという統一した目標を持って一緒に活動しています。」



ユースアンバサダーのJunの活動により、地元コミュニティは彼女の助けを求めるようになった。©Plan International Nepal/Naresh Newar

Junaの個人的な変化は明らかだ。「このプロジェクトで研修を受ける前は、私はいつも家にいて、ほとんど外に出ませんでした。今では出歩けるし、自信を持って話せるようになりました。多くの研修や様々な交流活動に参加する機会を得ました。PROTECTプロジェクトに触発されて、自分の才能や技能を見せれるようになりました。」

リーダーシップのレベルアップ

プロジェクトがJunaに与えた影響は大きい。プロジェクトの活動に参加したことで、彼女はSBCCセッションを単独で運営できるようになった。「アンバサダーになってからは、キャンペーンやSBCCセッションに先輩の女の子と一緒に行くことが多くなりました。最初は一人ではできませんでした。今は、こうした活動を自分ひとりでできるようになり嬉しいです」と胸を張る。

Junaの働きかけは家庭や村にまで及び、人身取引に対する啓発を目的としたSBCC活動を組織している。「路上劇を企画したり、パンフレットを配ったり、ポスターを貼ったり、啓発プログラム、オリエンテーション、集会を開いたりしてきました。コミュニティは私の活動を高く評価してくれていますし、私自身、変化をもたらすことにやりがいを感じています」と彼女は語る。

早すぎる結婚に反対する彼女は、困難にも直面してきた。「人を呼んでも、ほとんどの人は来てくれなかったけど、それでも活動しました。悔しかったけど、頑張った。私は彼らが変わっていくのを見ました。」

ユースアンバサダーの結束の強さが、状況を一変させた。Junaは言う。「私たちには強力なユースキャンペーン担当者のグループがあり、私たちの声を強化するのに役立っています。私たちは警察や自治体に早すぎる結婚を止めるよう要請しています。」

政府予算の支援を求める働きかけは、Junaと仲間のアンバサダーにとって大きな成果だった。「アンバサダーになる前は、政府の予算について知りませんでした。今では、私たちは人身取引撲滅の啓発キャンペーンに役立てるための資金を援助するよう働きかけました。自治体から資金をもらい、資料センターへの支援も受けました。役所の委員長は私たちと交流し、支援を申し出てくれます。」


逆境に直面しても、Junaと仲間のアンバサダーは屈しない。彼らの努力は、人身取引に対する啓発を行っただけでなく、地方レベルでの政策や予算決定にも影響を与えた。Junaは特に困難だった出来事を話してくれた。



ユースアンバサダー、JunaはPROTECTのおかげで力を得たと語る
©Plan International Nepal/Naresh Newar

「早すぎる結婚の事例が起き、ユースアンバサダーの友人が、結婚式の前日にそれを阻止しようとしたんです。家族は、彼女が早すぎる結婚に反対する活動を組織していることから、そのユースアンバサダーの仕業だと疑い、彼女を脅したのです。彼女は助けを求め、私たちは夜、家族に話をしに行きました。」

活動を続けるJunaは、レジリエントなコミュニティの構築におけるユース主導の取り組みの変革力を証明する存在だ。PROTECTプロジェクトは終了の時を迎えているが、その遺産はJunaのようなコミュニティのために明るく安全な未来を切り開く個人を通して生き続けている。



「棒と石（訳注：棒や石は骨を折るかもしれないが、言葉は少しも傷つけない。他人に嫌味な言葉を言われてもいちいち傷つく必要はないという慣用句。本レポートでは「棒と石」で統一する）」のファシリテーターであるSabita Timilsinaは、マクワンプル郡の学校の教師だ。「棒と石」の説明書の使い方の研修を受けて以来、彼女は教室をより魅力的なものにするために教えることに情熱を注ぐようになった。©Plan International Nepal/Naresh Newar

3

棒と石

PROTECTプロジェクトの重要な強みのひとつは、特に学校での「棒と石」訓練説明書の導入を通じて、学校への介入を成功させたことにある。子どもが自身の権利を理解し主張できるよう、知識と主体性を与える広範な取り組みに根ざして、プラン・インターナショナルは「棒と石」を貴重な資料として紹介し、その活用が世界中で広がっている。

この革新的なツールは、子どもが自身の保護に積極的に参加する姿勢を高め、育成するために作られたものである。「棒と石」の説明書は小学校高学年に導入され、教師たちはPROTECTプロジェクトを通じて研修を受けた。研修を受けた教育者たちは、「棒と石」訓練マニュアルを教室で活用し、多様な環境に適用できる保護の視点を持つ、強力なファシリテーターへと成長した。

この説明書では、さまざまな年齢層に合わせた実践的な活動を豊富に提供し、子どもに危険を認識し、自分自身を守るスキルを身につけさせる。更に、「棒と石」の手法では、子どものグループとの協力を重点を置き、予防と保護のためのより効果的な戦略の開発に子どもを参加させている。包括的な目標は、暴力を根絶する取り組みの最前線に子どもを位置づけることである。

この方法によって、教師は暴力、性的虐待、人身取引などのリスクを特定するための訓練を生徒に提供できる知識豊富なファシリテーターに生まれ変わった。その結果、生徒は、親や教師、その他の責任あるコミュニティ住民に知らせるなど、自分自身を守り、保護するための手段を理解することで、リスクを軽減するために自立する力を得ることができるようになった。

訳注:「棒や石は骨を折るかもしれないが、言葉は少しも傷つけない。他人に嫌味な言葉を言われてもいちいち傷つく必要はない」という慣用句。本レポートでは「棒と石」で統一する。



若いうち に教える

生徒は、「棒と石」の訓練説明書を使用してプロジェクトによって訓練された教師の助けによって、性的虐待や搾取に反対し、人身取引の危険を幼いうちから見分ける力を得ている。

Rejinaは、「棒と石」のセッションに参加した後、あらゆる形態の虐待に反対する積極的な生徒となった。epal/Naresh Newar

マクワンプルの学校教師Jaya Nepalは、「棒と石」の説明書の活用を提唱し、学校の主要教育課程に組み込むよう働きかけている。彼は、「「棒と石」

の説明書のような教材は以前にはありませんでした。PROTECTプロジェクトが始まってから、棒と石のプログラムが私たちの学校に導入されました」と語る。

「棒と石」の説明書の使い方の研修を受けたJayaのような教師は、それを「プログラム」と呼ぶようになった。保健の教師として、Jayaはこのプログラムにすぐに共鳴し、生徒の行動が大きく変化するのを目の当たりにした。

「生徒は声を上げるようになりました。「棒と石」の説明書は、生徒に変化をもたらしました」と彼は強調する。



Jaya Nepalは、「棒と石」の説明書が教師の行動を変えるために不可欠だと考えている。©Plan International Nepal/Naresh Newar

教師が「棒と石」の説明書の使い方や教室での授業の進め方について研修を受けて以来、生徒は自ら問題に取り組むようになり、不適切な接触、不当な凝視、人身取引などの話題について意識が高まっていることがわかる。

Jayaは、「生徒は、どの教師が不適切な行為をしているのかを識別することもできるようになりました」と言う。

生徒の新しい意識、オープンな文化

保護だけでなく、「棒と石」の説明書を使うことで、教師は教室で創造的な活動を行うための場を作り、隠れた才能を発掘し、生徒が自らの意見や考えを伝えるために創造的な才能を堂々と発揮できる環境を育てているのだ。このプログラムは伝統的な学問の枠を超え、生徒たちに自分の願望や野心を表現する場を提供している。

暴力、不適切な行動、差別についての会話を始めたことで、Jayaは生徒に文化的な変化が起きていることに気づいた。「このセッションを始めた当初、彼らは暴力を経験したことはないと話していました。しかし、このセッションを始めると、彼らは心を開き、あらゆる形の暴力や虐待を経験していることに気づいたのです。」このプログラムは彼らの行動に変化をもたらし、彼らに対するさまざまな形の暴力に気づかせた。

教師の行動変容

Jayaは、「棒と石」の訓練説明書を使用することで、教師の行動も変化したと話している。プログラムの効果を認識したJayaと同僚の教師は、「棒と石」の説明書を使った授業の継続を提唱し、学校の教育課程に組み込むよう要求さえている。

「棒と石」の説明書が提供するツールに触発された教師たちは、生徒の保護に次第に関与するようになってきている。Jayaは心強い話をしてくれた。「ある生徒が、親が彼女に勉強を続けさせたくないと言っていると話したんです。私たちは教師のチームと一緒に彼女の家に行き、もし保護者に余裕がないのなら、私たちが彼女のために本とペンを買い、学費を払うと伝えました。」この説明書によって、教師は実際の保護者に変身し、生徒が安心して保護されるようになったのだ。

「棒と石」の説明書を効果的に使うための教師への研修を振り返って、Jayaは教師の見方が大きく変わったと指摘する。「このプログラムは、私たちの教え方を変えただけでなく、教師と生徒の間のギャップを埋め、オープンで理解し合う文化を生み出しました。」

Jayaによれば、「棒と石」は「100%必要な教材でありツール」である。Jayaにとって、「棒と石」の説明書を継続的に使用することが最も重要である。彼は、このプログラムのために専用の授業時間を割くことを考えている。彼は継続的な訓練の必要性を認識しており、子どもの自己防衛のための主体性を養うことの重要性を強調している。

今では地域の代表者や保護者も、子どもの行動の前向きな変化を実感しているという。彼は保護者たちとも積極的に交流し、「棒と石」のセッションに参加することの重要性を強調し、生徒の幸福のための協力的な姿勢を育てている。

生徒が虐待に対して声を上げる力をつける

14歳の生徒、Rejinaは、「棒と石」の説明書を使った授業を受けた後、自分の意見に自信を持つようになった。彼女の歩みは、彼らの新しい授業スタイルが生徒に大きな影響を与え、知識や話す勇気を与え、カブけていることを反映している。

「新しいことを学ぶことができたし、発言する自信もついた。このプログラムがとても気に入りました」と熱く語った。彼女が語る新たな自信は、生徒の潜在能力を引き出し、自信とコミュニケーション能力を育むこのプログラムの能力の証である。

「棒と石」の説明書は伝統的な教科の枠を超え、Rejinaや彼女の仲間に重要な問題についての洞察を与えている。「棒と石」の説明書を使った先生の授業を受けて、私はGBVや人身取引、女性に対する暴力、娘と息子の差別について学びました」とRejinaは言及する。



Rejinaと仲間、「棒と石」が教師と生徒の双方に与える良い影響について意見を共有している。©Plan International Nepal/Naresh Newar

Rejinaが学んだ重要な教訓は、ジェンダー平等の重要性である。「どちらも平等であり、私は友人にもこのことを教えました」と彼女は誇らしげに宣言する。「棒と石」は、Rejinaが自身の知識を友人に伝え、「知らない人と話さないこと、身内でさえも信用してはいけない」と強調したように、前向きな変化のきっかけとなる。このプログラムは、生徒に批判的な視点を身につけさせ、複雑な社会学を理解する感覚を養う。

Rejina は家庭の中で、社会の規範や慣行と向き合っており、「家庭では、娘は公立学校へ、息子は私立学校へという差別もあります。娘は早く結婚させられます」と述べた。

教師は、「棒と石」の説明書が生徒に力を与えるのに役立つ、ステレオタイプを打破するきっかけになり、Rejinaのような生徒が古くからの伝統的な信念に挑戦し、自らの家族の中で平等を促進するよう促している、と言い始めた。

Rejinaの意識は、人身取引という陰湿な問題にも及んでいる。彼女は仲間はその危険性を説き、「女性の人身取引もありますが、子どもも売られています。子どもは軟弱で、簡単に操られます」。このプログラムは、潜在的な危険を認識し、それに対抗するための知識を生徒に与えている。

Rejinaは自身の過去を振り返って、「「棒と石」の説明書を使った先生のクラスに参加する前は、GBVや人身取引の特定について知りませんでした。未知のことについてとても勉強になりました」。Rejinaの新たな気づきは、彼女自身だけにとどまらない。彼女は学んだことを積極的に家庭で共有し、家庭内の問題にまつわる沈黙を破っている。「以前は、親に殴られても黙っていました」と、彼女は認める。

彼女の提唱活動は友人にも及び、用心するよう促している。「以前は、私の友人は大勢の見知らぬ人と共にいましたが、私が棒と石で学んだこと、そして身近な人からも不適切な行為があることを彼らに教えてからは、そのようなことはなくなりました」。

学校における影響力のあるプロジェクト 介入



棒と石の説明書を使用している学校は、生徒のために創造的な教授法を用いている
©Plan International Nepal

プロジェクト内でのPROTECTの影響力のある介入の中でも、「棒と石」の取り組みは、子どもが自らの保護に積極的に関与するように設計された教育ツールとして傑出している。地域の状況に合わせ、現代の人身取引問題を取り上げたこの訓練は、対象を絞ったアプローチを確実にするため、選ばれた学校と自治体で戦略的に実施された。

専属の研修指導者養成研修(TOT)は、「棒と石」の説明書の活用について厳しい訓練を受けた。これらの教師は、知識と献身的な力を得てファシリテーターとなり、10~18歳の生徒に貴重な授業を提供した。「棒と石」の説明書は教師に配布され、教室で実施するための実践的な手引書となった。

2年目には、各地区でTOTが実施され、年間約1,600人の生徒に恩恵がもたらされた。この波及効果は3年目も続き、より多くの教師が生徒に自己防衛の意識を持たせるようになり、影響は更に拡大した。

4年目には、更に多くの教師が再度研修を受け、合計119人の教師が「棒と石」のTOTを修了し、3つの郡で8,260人の子どもがプログラムに参加・修了し、効果を上げている。

たとえばバンケでは、「棒と石」のセッションの影響は教室の外にも広がり、学校が独自の子どもクラブを設立した。これらのクラブは、能力を高め、生徒を動員するという意図のもと、学校コミュニティにおける変革の担い手となった。スキルと知識を身につけた彼らは、棒と石のセッションを実施し、安全で包摂的な環境を育んだ。

バンケにあるジャナ・ギャン・ジョティ中学校の Sumitra Neupane校長は、「棒と石」のセッションは生徒に大きな影響を与えました。

その結果、同校は、いじめや差別、虐待、ハラスメントに取り組むことの重要性を認識し、課外活動の一環としてこのセッションを再現することを決定した」と述べている。

ネパール・ラストラ中等学校(バンケ)のTOT教師、Seema Oliは、人身取引の危険性が高い生徒を特定するための書式を同校が作成したと話す。「この積極的なアプローチは、そのような危険に脆弱な生徒を見極め、支援することを目的としており、生徒の安全と幸福を確保するという学校の姿勢を強調しています」とSeemaは言う。

23年の経験を持つ熱心な教師であるSashiは、生徒の行動変容を如実に体験したことを語った。「棒と石」のセッションを進行してきた彼女は、このプログラムが文脈に即しており、魅力的で有益な方法で保護のメカニズムを打ち破るものであることを強調した。

中等部の教師であり、「棒と石」のトレーナーであるGovinda Bhandariは、生徒の行動が大きく変化するのを観察した。「このプログラムによって、良い触れ方と悪い触れ方に対する意識が高まり、生徒は懸念を口に出したり、不快な状況に抵抗したりできるようになりました」と彼は言う。

16歳の生徒、Ukeshは、彼と彼の友人がセッションで、性的不適切行為を意味する「悪いタッチ」についての議論について、いくつかの話題を非常に不快に感じたことを話している。しかしすぐに、この会話は自身を守るために必要なことだと気づいた。



Ukeshによれば、生徒は性的不品行についてオープンに話し、教師と共有しているという。©Plan International Nepal/Naresh Newar

「自己認識と安全の重要性を強調しながら、自分が得た知識を後輩たちと分かち合うようにしている。「棒と石」は、私たちの考え方を变えるのに役立っています」とUkeshは言う。彼は理解するだけにとどまらず、子どもクラブの会長にもなった。

「人身取引は多くの場合、誰かが弱みに付け込もうとすることから始まるのだと理解するようになりました。以前は声を上げるのをためらい、恐れていましたが、今は自己表現する自信ができました。私の行動は変わりました。他の人を助けることに、よりオープンになりました」と彼は説明する。

生徒は、教師がどう貴重な教えを与えてくれたかの経験、セッションで共有された話、特に自己防衛に関する話は、心に残る影響を残した、と共有した。

プログラムは、ソーシャルメディアに関連するリスクなど、現代的な問題を掘り下げている。Ukeshは、露骨なコンテンツをブロックし、不適切な行動を報告することの重要性を強調する。彼は、潜在的な危険性を認識した上で、子どものオンライン活動を積極的に監視するよう親に勧めている。

Ukeshは「棒と石」のクラスには本当に感謝しています。私たちが安全であるための知識を身につけ、この意識を他の人と共有する力を与えてくれます。「棒と石」の説明書を使うこのようなセッションが他の学校でも導入されれば、より多くの子どもが恩恵を受けられると思います。最初は、生徒はこのような話し合いに困難を感じるかもしれませんが、意識することが子どもの安全を確保する鍵なのです」。

彼は、若い生徒の間に蔓延しているオンラインハラスメントを明らかにし、ソーシャルメディア上で見知らぬ人から追加された自身の経験を語る。「棒と石」のクラスでの経験から、彼は不適切な行為に立ち向かい、仲間を力づけるためにこのプログラムに参加するよう積極的に勧めている。

「「棒と石」は、私たちが罷にはめようとする見知らぬ人と交流しないよう、ソーシャルメディア上で注意することを教えてくれます。友人がオンラインハラスメントから救いを求めたことがあり、「棒と石」から学んだことを分かち合い、彼らを力づけました」。



生徒は棒と石のセッションに参加し、虐待や不品行について率直に話すようになった
©Plan International Nepal/Naresh Newar

彼はネット上のリスクに対処するだけでなく、薬物使用の危険性に関するユース教育にも積極的に取り組んでいる。彼の努力は社会的障壁を取り除くことにも及んでおり、彼は「以前は女の子と交流することはありませんでしたが、今では「棒と石」のおかげで教室で女の子と関わっています。私が思うに、棒と石の最も効果的な側面は、私たちが有能にし、力を与える知識を与えてくれることです」。

教師は「棒と石」の説明書をどう活用するか

教育者であるSabita Timilsinaは、「棒と石」を教育課程に組み込むことを強く提唱している。彼女は、社会科学教育が重要なトピックに触れる一方で、このプログラムは自己防衛のための実践的なスキルを提供することで際立っており、子どもの安全教育に対する総合的なアプローチの必要性に取り組んでいると説明する。

“The program extends beyond traditional 「このプログラムは伝統的な教授法にとどまらず、短編ドラマやビデオを取り入れ、生徒を巻き込んでいます。その効果は、かつては発言するのを躊躇していた生徒が自信を持ったことから明らかです。今では積極的に会話に参加し、リーダーシップを発揮しています。これは、「棒と石」がもたらした前向きな変化の証です」と、マクワンプルのシュリー・マナカマナ中等学校で教鞭をとるSabitaは言う。

Sabitaは、性的虐待のようなデリケートな問題を扱う際には、繊細さが要求されることを認識している。「棒と石」は、メッセージを効果的に伝えるための貴重なツールとしてビデオを活用し、こうした不快な会話を進めるために教師たちを訓練してきた。

「人身取引のような話題を取り上げるのは比較的簡単ですが、性虐待については繊細さが要求されます。このプログラムのおかげで、生徒が理解できるようにこれらの問題を説明できるようになりました。説明するのが不快になったときにメッセージを伝えるのに、ビデオは特に役立ちます」とSabitaは説明する。



Sabitaは独創的な教授法を用いて、彼らが経験したかもしれない虐待について話し合う。©Plan International Nepal/Naresh Newar

「棒と石」の主な目的は、生徒が自身の問題を特定し、認識するのを助けることによって、生徒をエンパワーすることである。このプログラムは、それらの問題に対処するために必要な情報と知識を身につけることを目的としている。

「教育者として私が重視しているのは、生徒が自身の問題を認識し、十分な情報を得た上で行動を起こせるような環境を育てることです。自己強化に重点を置くことで、棒と石のセッションを始めたのです」とSabitaは言う。

教師には、主に生徒の安全を守ることに焦点を当てた、16のセッションにわたる包括的な手引書が提供される。私たちは、作文や芸術など、問題を提示するための創造的な方法を奨励している。

セッションでは、潜在的なリスク、リスクの特定・回避方法、自己防衛策について掘り下げていく。

彼女は授業中、「棒と石」の説明書を使って生徒たちに独創的な方法を教えている。彼女は、手に入れたキットやビデオを利用した短編ドラマを企画し、不適切な行動、セクシャルハラスメント、児童労働といった話題について生徒を教育した。生徒は市場で児童労働の事例を発見するよう促された。この創造的な活動は、「棒と石」の教訓を強化するのに役立っている。

教師と生徒の間で高まる関心

Sabitaと似たような名前の彼女の17歳の生徒は、COVID-19パンデミックの最中でも学校が「棒と石」のセッションを続けていることを思い出し、自治体からの支援も受けたことを思い出した。「災害時には、子どもは脆弱になるので、子どもがどんな危険からも自分の身を守れるよう支援するセッションを通じて、彼らの安全な環境を確保するために、このプログラムが必要だったのです。」

学校での「棒と石」の活動の継続は極めて重要だ、と彼女は言う。彼女は、特に疎外された家庭で暮らす子どもが高い脆弱性とリスクを抱える地域に住んでいる。疎外されたコミュニティ出身のSabitaのような生徒は、「棒と石」の説明書がどのように行動に変化をもたらしているか、特に危険な移住のリスクに対する啓発について話している。



Sabitaは後輩にソーシャルメディアを慎重に利用するよう教え、オンライン詐欺の危険性を認識させる手助けをしてきた。
©Plan International Nepal/Naresh Newar

「多くのユースはソーシャルメディアを通じて誘惑されることが多いので、私たちは村のユースにソーシャルメディアのやり取りで騙されないように教育しています」と、同級生にソーシャルメディアの使用に用心するように注意しているSabitaは言う。

彼女は、一見儲かりそうな仕事のために学校を辞めるという誘惑に打ち勝つことについて、教える必要性を強調し、教育に集中し、贈り物や雇用の機会を提供する見知らぬ人に用心するよう促している。「棒と石」の授業に参加するよう勧めてくれた上級生に触発され、Sabitaは若い子どもと積極的に関わり、教育の重要性や危険な労働環境の危険性について助言している。





PROTECTプロジェクトの中心はコミュニティとの関わりだった
©Plan International Nepal

4

コミュニティシステムの強化

PROTECTプロジェクトの中核には、子どもの人身取引の複雑な性質を認識し、単一の団体が単独で活動することは不可能であることを認める、総合的なアプローチがある。この取り組みは、人身取引に対抗するコミュニティシステムを強化するために、すべての主要なステークホルダーを積極的に巻き込み、変革の旅に乗り出した。この包括的かつ総合的な多層的・多部門的戦略は、多様なグループ間の協力を促進し、プロジェクトの心臓部であることが証明されている。

共同戦線

PROTECTはまた、最も重要なステークホルダーの一人、保護者を人身取引撲滅キャンペーンに参加させている。保護者は法執行機関、国境カウンセラー、ユース、NGO、警察、国家とともに、人身取引に反対する団結の新しい文化を創造している。

Gita Poudelはスンサリのコシ自治体で保護者グループのリーダーを務めており、望ましい子育てによって人身取引のリスクを防ぐ方法を教え、意識を高めることに貢献している。
©Plan International Nepal/Naresh Newar

Gita Paudelは、人身取引を防止する上で最も重要な役割を果たすのは保護者であり、子どもはその危険に最もさらされていると考えている。PROTECTのSBCCセッションに参加して以来、彼女は力を得たと感じ、最前線で情報を共有し、特に東ネパールの南部に位置するスンサリ県のコシ自治体で、ネパールとインドの国境に近い場所に住んでいるため、子どもに対して注意深くなるためにどう積極的な役割を果たすべきかについて、仲間の親たちを指導している。

人身取引を撲滅するために親に力を与える

Gitaは、すべての保護者を代表する人身取引撲滅地域調整委員会(LCCHT)のメンバーでもあり、保護者の悩みや地域福祉を擁護する上で重要な役割を果たしている。

プロジェクト開始以前は、Gitaも多くの人びとと同様、人身取引の違いについて包括的な情報が不足していた。「このプロジェクトは、人身取引がジェンダーステレオタイプを超え、女の子と男の子の両方に影響を及ぼしているという理解を広げ、意識に大きな変化をもたらしました。また、海外だけでなく自国内でも、偽りの雇用の約束によって個人が売られてしまうという悲惨な現実が浮き彫りになりました」とGitaは言う。

彼女は、プロジェクトのSBCCがどのように彼女に新たな自信を与え、他の保護者への教育を可能にしたかを説明している。SBCCは、コミュニティへの啓蒙と力づけのために綿密に調整されている。対象を絞ったコミュニケーション

戦略を通じて、プロジェクトのSBCCは、人身取引に関する社会規範、態度、知識のギャップに取り組むことで、前向きな行動の変化をもたらすことを目指している。この取り組みは、重要なメッセージを伝える際に文化的に敏感なアプローチが重要であることを認識しており、その内容がコミュニティ特有のニーズや文脈に共鳴するようにしている。

PROTECTプロジェクトは780人の保護者(約90%が女性)を巻き込み、組織を強化させた。保護者たちは現在、バンケ、マクワンプル、スンサリの3郡の13の市町村すべてで独自の人身取引撲滅グループを持ち、地区レベルでの役割を高めている。

「今、私はこの知識を使ってコミュニティの保護者を教育し、人身取引の危険性を認識するための重要な情報(特に、保護者たちとのコミュニケーションをより明確にするのに効果あるアニメ・ビデオ)を提供できるようにしています」とGitaは言う。

スンサリ郡の3つの区で保護者グループと関わり、Gitaは30人のメンバーとともに、女性に対する暴力、子どもの人身取引、教育の重要性などの問題について積極的に話し合っている。彼女のカウンセリングは保護者にも及び、子どもの教育を優先させることの重要性を強調し、教育を受けた子どもは潜在的な危険を回避する能力が高いことを強調している。

見知らぬ人と話すことの危険性や、慎重な行動の必要性を子どもに教えるという積極的な姿勢は、彼女の家族だけにとどまらない。疎外された地域で働く彼女は、前向きな変化を見ている。コミュニティでは人身取引の事例があまり報告されていないにもかかわらず、彼女はネパール国内外を問わず、仕事のために移住を余儀なくされている人びとの脆弱性を認識している。

旅行、特に国境を越える旅行には特有のリスクがあることを認識し、Gitaは安全な移住を積極的に推進している。彼女のカウンセリング活動は、雇用を求める者のみならず、合法的な仕事のオファーを受けている者にも及び、警戒を怠らないことの重要性を強調している。

Gitaは重要な保護者としての親の役割を強調し、子どもの行動や活動を常に監視するよう促している。子どもの状態、ニーズ、活動を理解する必要性を強調し、子どもが間違った道に迷い込まないように、積極的な子育てを提唱している。

日々国境を越えた動きがあることを認識しているGitaは、ネパールとインドの警察間の協力の重要性を強調する。彼女は母親グループと積極的にコミュニケーションをとり、保護者が潜在的なリスクについて常に最新情報を得られるよう、ネット上の安全啓発に力を入れている。

親の責任を一貫して主張するGitaは、子どもの行動や活動を常に監視することが重要だと強調する。彼女は自分の経験を語ることで、このプロジェクトが彼女を警戒心の強い親に変え、子どもの安全確保に積極的に関与するようになったことを説明している。



保護者グループは国境でブーススタッフと関わり、人身取引の危機に瀕している人に関する情報を共有している。©Plan International Nepal/Naresh Newar

彼女はカウンセラーとして、学歴に関係なく、仕事を求めて移住してくる人びとと関わっている。彼女の努力は、特に女性の間で、ネットの安全についての認識を広めることにも及んでいる。情報支援ブースのスタッフと協力しながら、彼女は保護者に効果的なカウンセリングを行うための更なる取り組みを構想している。

国境情報支援ブース

プラン・インターナショナル・ネパールがPROTECTプロジェクトの一環としてCoCoNと共同で設立した情報支援ブースでは、献身的なカウンセラーであり社会動員でもあるBalkumari BKが重要な役割を果たしている。

情報支援ブースは、人身取引に対するコミュニティシステム強化という、プロジェクト戦略の中でも極めて重要な要素である。インドの国境近くに位置するコシ地方にあるこのブースは、越境を規制する手段としてではなく、安全な移住を保証し、脆弱な個人が人身取引の餌食にならないよう保護するための積極的な取り組みとして機能している。

「もしブースがなかったら、国境を越える人に問い合わせることができない。私たちには、人びとを呼び止めて質問する権限がないのです。デスクがあったからこそ、私たちは新たな自信を得たのです。誰に何を聞けばいいのか、知識があるんです」とBalkumariは強調し、潜在的な人身取引被害者を保護するブースの意義を強調した。

SBCCセッションを活用し、Balkumariはブースで得た知識を地域コミュニティに広めている。これらのセッションは、ステレオタイプな物語を超えたさまざまな形態の人身取引についてコミュニティ住民を啓発し、警鐘を鳴らす役割を果たしている。「SBCCのセッションを開催したコミュニティの人びとにも、同じ情報を伝えました。そして彼らは、これほど多くの形態の人身取引があることに非常に驚いていました」とBalkumariは言い、コミュニティ教育の効果を示している。

彼女の経験は、脆弱な移民の救済にブースが極めて重要な役割を果たすことを裏付けている。カウンセリングを通じて、彼女は多くの人、特に女性と女の子を特定し、支援し、彼女たちが偽の就職斡旋業者や潜在的な人身取引業者の犠牲になるのを防いできた。「私はここで4年間働いています。この情報支援ブースのおかげで、特に多くの女性と女の子を救うことができました」と彼女は語る。



BalkumariはSBCCセッションを実施し、危険な移住のリスクに関する情報を地元コミュニティが共有できるようにした
©Plan International Nepal/Naresh Newar

国境におけるPROTECTの支援の影響を振り返り、Balkumariは脆弱な国境から、より安全な環境へと変化したことを認めている。「4年前、ここには何もなかった。誰が国境を越えてくるのかわからなかったし、人身取引をする側にとっては、越境はとても簡単なことでした」と彼女は振り返る。ブースでSBCCセッションやカウンセリングを行うことで、自治体、ネパール警察、武装警察隊、地元コミュニティなど、さまざまな関係者の支援を得ている。



安全な移住に関する国境コミュニティの教育

Balkumari は、女の子や女性、特に丘陵地帯の出身者はリスクが高いと強調する。ブースのカウンセリング活動は物理的な枠を超え、ビデオやオリエンテーション・セッションを通じてコミュニティに働きかけ、保護者や潜在的移住者に人身取引の違いについて啓発し、誤解を解いている。

「女の子は危険が高く、グルミヤダンのような丘陵地帯からやってきて、危険に気づいていないのです」と Balkumariは言う。国境検問は嫌がらせが目的ではなく、弱者、特に丘陵地帯の女の子を救うためのものだとして彼女は説明する。用心深く観察することで、危険にさらされている人びとを特定し、効果的に介入することができる。彼女はブースの外でも積極的にコミュニティと関わり、ユースアンバサダーや子どもの権利活動家、保護者グループと密接に協力して、人身取引に対する意識を広め、力を与えている。

「情報支援ブースも待機しています。私たちがここにいないときは、ネパール警察も常に監視しています」と彼女は指摘する。



バンタバリのような国境地帯の小都市も、密売人の中継地として利用されている。©Plan International Nepal/Naresh Newar

Tかつては人身取引に無関心だったコミュニティも、PROTECTの取り組みを通じて新たな知識を身につけた。

スンサリ郡バンタバリとバンケ郡ジャムナハの国境地帯でPROTECTが支援した情報支援ブースは、安全な移住を促進し、危険な移住に伴うリスクを教育する上で極めて重要な役割を果たした。

1万3,000人超を情報提供でサポート

この国境の取り組みは、インドやその他の国々に移住するネパール人の人身取引のリスクを防ぐために、国家と非国家アクターが協力してシステムを強化するという、より広範な取り組みの中核をなすものである。

2019年以降、搾取の危険性が高い子ども、女性、男性を含む800人超の人身取引の事態を阻止することに成功した。インドへの国境を越える推定2,300人の18歳未満を含む合計1万3,211人が、情報支援ブースから情報を入手した。

Balkumariは同僚のMohammad Pahlad Aalamと共に、バンタバリ国境地帯だけで174人の女の子と女性を救出することができた。

「この仕事はとても意義があり、誇りに思っています」と彼は言う。だが、人身取引業者は大きなネットワークを持っており、常に監視されている可能性もあるため、この仕事にリスクが伴うと彼は感じている。

潜在的なリスクにもかかわらず、ネパール警察からの支援と保護を受けて、彼はこの活動に専念している。

Pahladは、警察、特に武装警察からの支援を受け、彼らの迅速な行動と協調を強調している。プロジェクトが主催するセッションを通じてSashastra Seema Bal (SSB) と関わることで、彼らのアプローチは変わり、国境関連の問題に対してより連携し慎重に取り組んでいる。

インド警察やNGOとの国境を越えた協力関係

このプロジェクトはまた、ネパールとインドの国境地帯で「SSB」として知られるネパールとインドの国境警備隊の効果的な連携を促進した。インドのNGOとも連携して、サイバー、特にユース女性や子どもの救出活動に貢献した。

プラン・インターナショナル・ネパールのスンサリにおける現地実施NGOのパートナーであるCoCoNのプログラムコーディネーター、Hemanta Raj Paudelは、「スンサリでは、インド警察が国境での私たちの活動に非常に感銘を受け、人身取引のリスクを特定するための研修を職員に提供するように要請してきました」と語る。

Hemanta のチームは、このプロジェクトを通じて3回ビルプールに情報提供者として赴き、人身取引や密輸について、また国境を越えた人身取引や危険な移住を防ぐためにネパール人とインド人がどのように協力できるかについて、インドの様々なIlaka(地域)大隊の隊長に研修とオリエンテーションを行った。

「これはプロジェクトが始めた非常に効果的な調整でした」とHemantaは言う。「国境地帯はどちらも開放的で非常に広いため、ネパール人だけで密売人を取り締まるのは困難であることを考えると、国境を越えた調整は非常に重要です」と彼は付け加える。

例えば、人身取引のホットスポットとされるスンサリは、インドと62.5kmの国境を接している。スンサリが脆弱なのは、高速道路を通じて近隣の他地域と密接につながっていること、また丘陵地帯の主要な中継地であり、農繁期には多くの人がそこからインドに移住するためでもある。

彼らの連携による重要な任務と成果のひとつは、ロックダウン中にインド人ギャングが企てた人身取引の脅威から41人の女性を救出したことだ。

「彼らは家計の状況が悪く、儀式の間2時間座っているだけで2ルピー(1,500米ドル)をもらえるのはいい稼ぎだと言っていました。彼らはすべての情報を共有しましたが、私たちは彼らが何も知らないことに気づきました」とBalkumariは語り、人身取引対策における国境を越えた協力の有効性を強調した。

女性は全員、インドのSSBIによって救出され、ネパールに運ばれてネパール警察に引き渡され、プラン・インターナショナル・ネパールのパートナーであるNGOやその他の団体の支援を受けて無事に帰宅した。ネパール警察は行動を起こし、2人を逮捕し、サプタリからの人身取引に関与していた他の6人を特定するに至った。「この捜査は強い満足感をもたらしました」とBalkumariは振り返る。



Tika Sharmaは国境でカウンセラーとして16年以上働いている。
©Plan International Nepal/Naresh Newar

安全な移住の推進

人身取引業者はさまざまな手口で、仕事やその他の経済的機会を約束して人びとを誘い続けているが、バンケのNGO Saathiが運営する国境情報支援ブースでカウンセラーを務めるTika Sharmaは、バンケのジャムナハ国境

を越える際に罠にかかる危険性のある人びとを特定するベテランとなっている。

「バンケの国境は広いので、人は国境を越えるのは簡単だと思っています。ほとんどの人がこの国境を利用しています。以前は、人びとはここからバッグを持って簡単に通過し、集団で旅行していました。今は、人びとは財布を一つしか持たず、いい服を着て、集団ではなく一人で旅行するようになりました」とTikaは説明する。

バンケ郡におけるプロジェクトの現地パートナーであるSaathiとともに働くTikaは、16年にわたり国境で人身取引業者や弱者の特定に携わってきた。2005年以来、彼女は現場に立ち続け、ここ4年半はPROTECTプロジェクトの支援を受けて、この活動を続けている。

コミュニティとの連携が国境監視をより効果的に

「PROTECTプロジェクトは、国境の情報・相談ブースでの活動を支援してくれています」。しかし、彼女は国境での活動だけでは不十分であることを強調し、「ユースが国境を通過することが多いので、地域コミュニティとも緊密に協力する必要があります」と述べた。



パンケ郡の開けたネパールとインドの国境地帯は、毎日何千人もの人びとが利用している。PRIOTECTの現地実施パートナーであるSaathiは、情報提供やカウンセリングサービスを通じて、人身取引の防止に重要な役割を果たしている。©Plan International Nepal/Naresh Newar

Tikaの役割はブースにとどまらない。彼女のコミュニティへの関与は、情報共有文化の醸成に大きく貢献している。コミュニティとの関係は、人身取引撲滅への彼女の取り組みにおいて極めて重要である。彼女と彼女のチームは、国境を越えてインドに入国しようとする人物に関する貴重な情報を住民から受け取っている。

「現地の人々は、国境監視プロセスに対する当事者意識を持つようになり、不審な活動を積極的に知らせてくれるようになりました。潜在的なリスクを特定し、人身取引を防止する上で、このような集団的な取り組みが役立っています」とTikaは言う。

より良い国際的展望を求めて移民が冒すリスク

Tikaは言う。「危険な移住の現実と、海外での仕事の機会を求めて身を投じる危険なリスクは、悲痛で差し迫った問題です」。彼女の国境での経験は、しばしば事態の深刻さに気づかず、自ら進んで潜在的な危険に身を投じるユース女性の実像を浮き彫りにしている。より良い雇用の可能性を求めて、彼女たちは儲かる仕事を約束する人物を信頼してしまうのだ。

さまざまな事例から学んだTikaによれば、儲かるといったような、おいしい話は、たいてい人身取引業者によるもので、欺くだけでなく、疑われずに検問所を通過する方法を指示することもあるという。彼女は、生理用ナプキンカバー代わりにして、衣服の下にパスポートを隠していた若い女性の例を紹介した。国境当局を欺こうとするこの必死の試みを発見するには、Tikaの鋭い観察力と介入が必要だった。

話は国境で終わらない。Tikaはクウェートに行った21歳の女性の事例を語った。21歳の女性は、Tikaたちと話すことを今日費したので、女性の友人経由で連絡を取った。彼女の場合は、儲かる仕事があるという言葉に誘われていた。Tikaと彼女のチームは、その危険を理解し、帰国することに同意した彼女にカウンセリングを行った。

この問題を更に深刻にしているのは、多くのネパール人がインドの空港をネパールの空港よりも甘く見ているという事実である。このような誤解から、彼らは国境を越えてインドの空港を国際旅行に利用する。この誤解を利用した密売人は、ネパールとインドを結ぶ国境が隙だらけで、交通手段も多様であることを悪用している。

国境監視は同様のプロジェクトで拡大する必要がある

Tikaと彼女のチームが直面する問題の深刻さは、定期的な研修の機会がないことを考えれば、なおさら明らかだ。人身取引業者は絶えず戦略を進化させているため、国境カウンセラーは最新の手口を常に把握しておく必要がある。

このような困難にもかかわらず、Tikaは人身取引の餌食にならないよう、脆弱な女性や子どもを守るために揺るぎない信念を持ち続け、この複雑な問題を根本から解決するための啓発、資源、研修の強化が急務であることを強調している。広大な国境は、単一の組織が効果的にカバーするための物理的な難題を突きつけている。

「毎日1,000人以上の越境者がいて、協力的な取り組みが必要です。このような動きに対応するためには、プロジェクトの支援が欠かせません。人身取引の手口について常に最新情報を得ることで、プロジェクトはSaathiのようなNGOが彼らの試みに負けず効果的な監視を維持できるよう支援しています。」

SaathiとPROTECTプロジェクトの協力は相乗効果を生み、強固な国境監視とカウンセリングのためのリソースと経験を組み合わせるものである。これは、現在の課題に取り組むだけでなく、人身取引の動的な性質に適応するための基盤を確立し、国境沿いの弱者を保護するための弾力的なアプローチを保証する。

地域のパートナーシップを通じて政府の取り組みを支援

コシ地方のAnita Devi Yadav副市長は、人身取引の現実を目覚めるまでの個人的な経験を共有してくれた。プロジェクトが始まる前、彼女の自治体には人身取引撲滅に焦点を当てた特別なプログラムはなかった。

「PROTECTプロジェクトは、この問題への注目を集め、バンタバリに情報支援ブースを設置し、ユースアンバサダーが積極的に参加するきっかけとなりました」と副市長は語る。

Anita Devi Yadav副市長は、このプロジェクトの意義について、「もしこのプロジェクトがなければ、人身取引という問題に注目しなかったでしょう」と述べた。更に彼女は、プロジェクトの介入により、LCCHTの改革が促進され、人身取引撲滅のための戦略的枠組みへの道が開かれたと付け加えた。

LCCHTは政府の組織だが、機能はしていなかった。プロジェクト開始後、職員は能力開発研修を受け、会議のサポートを受けた。こうした取り組みにより、LCCHTの構造はより機能的になった。現在、委員会の職員は定期的に会議を開き、人身取引の事例を特定している。

Anita副市長は、「このようなプロジェクトは変化をもたらし、このプロジェクトは、LCCHTの実績と活動を継続的に追跡しています」と述べ、プロジェクトの効果を認めている。このプロジェクトは、持続的な関与と経過観察を重視しており、人身取引に対する地域の取り組みが強固なものプロジェクトが実施された3つの郡すべてで、自治体は、人身取引との闘いにおけるNGOと政府との協力の重要性を強調している。例えば、マクワンプル郡のガディでは、データ収集の開始においてプロジェクトが重要な役割を果たし、LCCHTをより効果的なものにした。スンサリ郡のコシ地区では、国境に設置された情報支援ブースが活動を継続し、啓発キャンペーンも継続され、プロジェクト後の継続性の重要性が示された。



Anita Devi Yadav副市長は、PROTECTのようなプロジェクトは、政府の注目を集める上で大きな役割を果たすと考えている。
©Plan International Nepal/Naresh Newar

バンケ郡では、国や非国家の国境業務担当者が能力を高め、感化された。「私たちは定期的なミーティングを実施し、オリエンテーションを行い、インドでは子どもを救出し、家族との再会を支援しました」と、バンケのプラン・インターナショナル・ネパールのプロジェクトオフィサー、Santosh Pulamiは言う。

また、インドでは子どもが行方不明となったケースがあり、プロジェクトでは政府と協力して救出活動を行ってきたという。「私たちは、ネパールとインドの両国で、越境会議を何度も開きました。国境を越えた調整により、インドの警察や組織と良好な関係を築くことができました。このおかげで、インドの協力者の助けを借りて、インドのさまざまな場所から救出された行方不明のネパールの子どもの特定することができました」とSantoshは語った。

人身取引問題に関する政府の主体性を促進する

マクワンプル・ガディ自治体の女性・子ども・社会的包摂課の前課長である政府高官Mandira Thapalは、「プロジェクトはLCCHTの再活性化に非常に積極的であり、その重要な一歩のひとつがデータ収集の開始でした」と繰り返した。

これは、地方政府が人身取引撲滅の取り組みに主導権を握るよう力づけるというプロジェクトの成功を強調するものである。彼女は、このプロジェクトが変化のきっかけとなり、人身取引との闘いに自治体やコミュニティを積極的に巻き込んでいることを証明していると説明する。

優先順位を再構築し、協力関係を育み、プロジェクト後の継続性を確保することで、このプロジェクトはネパールの人身取引撲滅に向けた持続可能なコミュニティ主導の取り組みの基礎を築いた。Anita Devi Yadav副市長が適切に言うように、「プロジェクトの影響は良好であり、女性の救出は模範的である」。

5

結論:

キャンペーンは続く

5年間のPROTECTプロジェクトは2023年に終了し、COVID-19パンデミックによる困難にもかかわらず、その目的を成功裏に収めた。この間、このプロジェクトは、インドとネパールにおける人身取引、子どもの人身取引、危険な移住との闘いにおいて、政府、市民社会組織、コミュニティを支援する上で大きな前進を遂げた。

学んだ教訓は、コミュニティの様々な層を巻き込むこと、自治体との協力、一貫した調整の維持、多面的なアプローチに焦点を当てること、地元の能力を強化すること、行動変容コミュニケーションを重視することの重要性を強調している。プロジェクトの継続的な努力は、地域コミュニティを力づけ、人身取引撲滅キャンペーンを強化し、地域全体、特にリスクの高い地区で前向きな変化を促すことを目的としている。

このプロジェクトは、コミュニティ、保護者、LCCHT、法執行機関（警察）、NGO、ユースリーダーを戦略的に巻き込み、総力を挙げて取り組んだ。

プラン・インターナショナル・ネパールの包摂的、多層的、全体的なアプローチは、子どもの人身取引に対する強固な防御を作り上げる上で、これらのステークホルダーが相互に関連していることを認識している。各主体は、人身取引との集団的な闘いにおいて重要な役割を果たす。家族と子どもは、子どもの人身取引のリスクと結果に対する認識を高めることによって、主要単位として力づけられる。ユースは、積極的な変革の主体として、より広範なコミュニティの啓発に強力なツールとなるソーシャルメディア・キャンペーンを主導する。

重要なのは、ユースが自己防衛行動の訓練を受け、潜在的な人身取引のリスクを回避できるようになることである。保護者は積極的に参加し、子どもを守るための実際的な手段を講じ、彼ら自身や仲間を守るよう奨励する。社会的なセーフティネットや仕組みが予防措置として機能し、サービスへのアクセスを容易にし、サバイバーの社会復帰を支援することで、コミュニティの基盤が強化される。

コミュニティを基盤とする人身取引撲滅委員会は、この協力的な取り組みの中核である。人身取引の脅威に対応し、サバイバーの社会復帰を促進するための行動計画を策定するよう、彼らは強化され、力を備えている。このプロジェクトは地方政府レベルまで影響力を拡大し、持続的な予防と対応努力を確保するためのプログラムと予算配分を提唱している。

国境では、情報支援ブースが安全な移住の促進に大きな役割を果たしている。対象者を絞った研修プログラムを通じて、彼らは人身取引の疑いがある状況を認識し、対応するスキルを身につけている。このプロジェクトは、国境を越えてその影響を拡大し、政府・非政府機関双方の関係者を巻き込んだ国境を越えた交流計画を実施している。

NGOパートナーとの効果的な協力： プロジェクト成功の鍵

要するに、PROTECTプロジェクトは集団行動の力を信じている。すべての主要なステークホルダーを巻き込み、全体的、多層的、多部門的なアプローチを採用することで、プロジェクトはコミュニティ、政府、機関を織り成す協力の織物を作り上げた。

バンケのPROTECTプロジェクトオフィサーであるAnugya Mishraは、「私は、このプロジェクトが前向きな影響を与え、人身取引に対するコミュニティ主導の持続可能な防御の基礎を築いたと信じています」と語る。プロジェクトの成功の核心は、Saathi、RADO、CoCoN、バンケ・ユネスコクラブなど数多くのNGOとの戦略的パートナーシップにあると彼女は考えている。彼らは、知識の共有、定期的な会合と調整、弱者の生活を守るための集団的な取り組みを通じて、人身取引に対する流れを変える手助けをしてきた。

集団活動の価値：未来への青写真

プロジェクトが実施されたバンケ、マクワンプル、スンサリの3郡は、人身取引のホットスポットとされており、1つの組織では完全に対処できない複雑な課題を抱えていた。Santoshは協力の重要性を強調する。「1つの組織がすべての地域を網羅することは不可能であり、その存在はどこにでもあるわけではありません」。

このような現実を受け、たとえばバンケでは、人身取引対策に取り組む8～9の団体が集まり、情報を共有し、意見を交換できる共通の場である緩やかなフォーラムを設けることで、プロジェクトは重要な一歩を踏み出した。

この共同フォーラムは単なる出会いの場ではなく、危機に瀕した人びとの命綱となった。Santoshは、この共同努力の力強い例を語る。「プラン・インターナショナル・ネパール、Saathi、バンケ・ユネスコクラブ、Shakti Samuhaが力を合わせて、13歳と16歳の女の子2人を救出したことは、模範的な共同作業となりました」。ジャパに向かうと騙された彼女たちは、ネパールゲンジでインドへ向かっていることに気づいた。緩やかなフォーラムは、緊急対応チームとして行動を開始した。

犯人は逃走し、彼女たちはネパールゲンジのホテルに3～4日間取り残された。行き先のわからない彼女たちにとって、煩雑な法的措置は不安材料となった。このとき、連携の強みが発揮された。Santoshは介入方法を詳しく説明してくれた。「私たちの緩やかなフォーラムから連絡を受け、犯人を探しに行きましたが、犯人はすでに逃げていました。彼女たちも法的措置を取りたくなかった。彼女たちは自分たちがどこに向かっているか知らなかったのです」。迅速かつ協調的に、NGOは彼女たちの家族と連絡を取り、村への帰還を促し、彼女たちの安全な再会を確保した。

「このプロジェクトは、人身取引に対する持続可能な、コミュニティ主導の防衛の基礎を築いた。」

Santosh Pulami、PROTECT
プロジェクトオフィサー

この協力的な救出作戦の成功は、組織が団結して人身取引に立ち向かえば、強力な力になることを物語っている。Santosh Pulamiは、「私たちは情報やアイデアを共有しています」と強調し、協力的な取り組みによって得られる集合的な知恵を強調している。単に被害者を救うだけでなく、人身取引を防止し、ネットワークを解体し、コミュニティに力を与えるという共通の献身が必要なのだ。

PROTECTプロジェクトによる共同活動は、人身取引との闘いにおけるNGOのパートナーシップの不可欠な役割を強調している。バンケの緩やかなフォーラムは、共通の目的のために活動する組織のパートナーシップの成功の青写真となった。

スンサリ郡でCoCoNのプログラムコーディネーターを務めるHemanta Raj Paudelは、子どもや保護者の参加を最優先し、カづけや啓蒙活動を通じて当事者意識を持たせることがプロジェクトの効果につながったと強調し、コミュニティ全体の参加が成功の礎になったと説明した。

Paudelは、「プロジェクトが終了した後でも、プロジェクトが可能にした彼らの参加は、人身取引撲滅キャンペーンが長期的に継続するよう、当事者意識を醸成するのに役立ちます」と断言する。このアプローチによって、人身取引との闘いがコミュニティの意識に定着し、プロジェクトの期間をはるかに超えて継続することが保証される。

プロジェクトが終了に近づくにつれ、すべてのユースアンバサダーが行動計画を作成し、彼らの活動が継続していることを示した。「ユースアンバサダーの存在と彼らの積極的な関与は、プロジェクトの活動が人身取引を阻止するキャンペーンとして継続していることを示す鮮明な例です」とPaudelは強調する。この継続的な取り組みと積極的な参加は、持続可能なシステムを形成し、プロジェクトの遺産が生き続けることを確実にする。

行動を求める：PROTECTのキャンペーンを持続させるNGO

NGOがこの勢いを持続させるためには、同様の全体的アプローチで人身取引撲滅キャンペーンを継続することが不可欠である。人身取引と闘う組織は、政府の持続的な行動を提唱する上で重要な役割を果たす。「地元政府には他にも優先事項がたくさんあるので、人身取引撲滅のために行動を起こすよう訴え続けなければなりません」

と、PROTECTの地元実施NGOパートナーであるバンケ・ユネスコクラブのプロジェクトコーディネーター、Binita RCは言う。

地方政府には競合する優先事項があるため、人身取引との闘いを確実に議題に残すためには、NGOの一貫した関与が必要である。「役人には他に優先事項がたくさんありますが、人身取引撲滅活動を継続するよう彼らに思い出させるのが私たちの役割です」と彼女は断言する。

人身取引との闘いは、従来の物語にとどまらない。「人身取引は子どもだけでなく、女性や男性も標的にしています」と彼女は述べる。NGOは、人身取引の多面的な性質に対処する包括的で包摂的な戦略を提唱しなければならない。各地区にLCCHTを結成し、維持するための継続的な努力、警察との協力、機能性の確保が求められている。

人身取引の問題が注目され続けるためには、NGOは不断の働きかけが必要だ。「機能的な委員会を作るべきです。これは非常に深刻な問題です。私たちは協力し合い、各区に人身取引対策委員会を必ず作るべきです」と彼女は強調する。人身取引撲滅キャンペーンには、自治体の注目を集め、それを維持するための粘り強い協調的的努力が必要である。



रोकथाम नै
समाधान

I AM AGAINST
TRAFFICKING
#togethertoendchildtrafficking

ユースアンバサダーは、プロジェクト終了後も人身取引撲滅キャンペーンを継続することを約束する©Plan International Nepal

行動の緊急性を強調し、人身取引業者は意識のギャップを利用して先手を打っていることを強調する。「たとえ一人でも救うことができたら、それはその人の人生への贈り物となるでしょう」と彼女は表現する。NGOは自治体と協力し、区レベルで委員会を設立し、移住者の記録を取り、定期的な会議を開催しなければならない。Binitalによれば、その責任は地元の代表にある。

PROTECTプロジェクト： 持続可能性を核に

PROTECTのプロジェクトリーダー兼マネージャーであるAnu Upadhyayが、バンケ、マクワンプル、スンサリの各郡で展開された歩みを振り返る。持続可能性を中核に据えて設計されたこのプロジェクトは、当面の目標を達成するだけでなく、人身取引と闘うための永続的なメカニズムの確立を目指した。

「私たちは、3つの重要な目標を達成するためにプロジェクト実施に焦点を当てただけでなく、人身取引撲滅キャンペーン継続のために、これらの活動をどのように持続させるかも計画しました」とAnuは言う。

プロジェクト開始当初から、自治体との戦略的提携が継続性の基盤となっていた。自治体の支援によるコミュニティ参画の重視は、既に具体的な取り組みとなっている。自治体はPROTECTの影響を認識し、LCCHTの活動を維持するための資源を割り当てている。

「ユースアンバサダーは、子どもや女性に対する人身取引やその他の有害な社会的慣習を止めさせるために、コミュニティを教育し、行動を変容させようと声を上げ、変わらぬ活力と情熱をもって活動を続けています」とAnuは強調する。

コミュニティ教育と行動変容に対する彼らの揺るぎない取り組みは、プロジェクトの期限を越えて、情熱を示している。自治体は、彼らの極めて重要な役割を認識し、アンバサダーたちを力のあるユースリーダーとして認め、今後も協力していくことを約束した。

「私たちのプロジェクトが終了するまでの間、彼らの行動変容は、事件発生後だけでなく、暴力や人身取引が発生する前にも警察に通報するような関心を持つ市民になることで、直接的または間接的に人身取引撲滅キャンペーンに参加するという行動に表れています」とAnuは話す。

持続可能性の核心は、受益者の行動変容にある。人身取引との闘いに積極的に参加する、積極的なコミュニティ住民へと変貌を遂げた彼らの姿は、プロジェクトの永続的な効果を物語っている。コミュニティ主導のキャンペーンへの移行は、コミュニティ住民と警察との情報共有の増加によって証明されており、相互に有益な環境を作り出している。

6

PROTECTプロ

プラン・インターナショナル・ネパールの人身取引撲滅キャン

プロジェクト

ペン

保護、追跡、教育、変革(PROTECT)

インドとネパールの両国でプラン・インターナショナル・アメリカの支援を受けて2019年に開始されたPROTECTは、人身取引、子どもの人身取引、危険な移住に取り組むことを目的とした包括的な取り組みであった。スンサリ、パンケ、マクワンプルの3郡の13の市町村で実施されたこのプロジェクトは、多部門にまたがるアプローチを採用し、さまざまなステークホルダーを巻き込み、コミュニティのさまざまな層で活動した。

目的

- I) 子どもと家族は、子どもの人身取引のリスク、状況、結果を特定し、自らを守るための措置を積極的に講じ、人身取引された子どもの事例を報告し、サバイバーの社会復帰とサービスの利用を支援することができる。
- II) 子どもの人身取引を防止し、サービスの利用を容易にし、子どもに優しい参加型の方法で社会復帰を支援するために、コミュニティの社会的セーフティネットと構造を強化する。
- III) 国家も非国家主体も、子どもの人身取引に対応し、サバイバーを安全に帰還させ、彼らの社会復帰を促進する能力を高めている。

主な注目点

コミュニティの強化: このプロジェクトは、コミュニティの子ども、保護者を巻き込むことに重点を置いた。プロジェクトは、彼らが人身取引に関連するリスクを認識し、そのリスクを軽減するための知識を身につけ、人身取引事件を報告するよう促すことを目的とした。コミュニティの関与がこの目的の中心であった。



ユースアンバサダーは、プラン・インターナショナル・ネパールのSBCCセッションを通じて、コミュニティの行動変容に重要な役割を果たした。©Plan International Nepal

サバイバーの社会復帰: このプロジェクトは、人身取引のサバイバーの社会復帰を促進することを目的とした。これは、能力開発訓練や技能開発の支援を通じて達成され、サバイバーの起業を支援するものである。

地方統治の強化:このプロジェクトは、地方政府とコミュニティの構造を強化するのに役立った。これには、自治体、警察行政、国境を越えた調整との協力が含まれる。プロジェクトは主にコミュニティレベルの介入に重点を置いたが、人身取引撲滅の取り組みに関連する政策に影響を与える自治体も支援した。

ユースの参加:プロジェクトはユースを効果的に動員し、相当数のユースアンバサダーを育成した。これらの力づけられた若いリーダーは、人身取引、危険な移住、家庭内暴力、早すぎる結婚、ジェンダー差別など、さまざまな社会問題に反対するキャンペーンで重要な役割を果たした。

社会的行動変容コミュニケーション:SBCCはプロジェクトの重要な要素である。これには、人目を引く公共掲示物、デザイン性の高いポスターやパンフレット、教育用ビデオなどが含まれる。これらの素材は、コミュニティ、特に子どもに人身取引や虐待のリスクについて教育し、行動を起こす力を与えることを目的としていた。

国境への介入:インドへの移民の流出が多い国境地域が、重要な介入ポイントとして特定された。これらの場所には情報支援ブースセンターが設置され、訓練を受けたカウンセラーが常駐し、人身取引の恐れがある個人を監視し、支援を提供した。



人身取引撲滅委員会の活性化:プロジェクトは、LCCHTの再活性化と改革に成功した。これらの委員会が戦略を立て、予算を配分し、13の市町村すべてで活動できるように、定期的な会議が促進された。

持続可能な取り組み:プロジェクトは、その目的を達成するだけでなく、自治体の支援を受けながら、コミュニティとの継続的な関わりを通して活動を持続させることに重点を置いた。

学校への介入:このプロジェクトでは、子どもの保護と人身取引に関連するリスクを特定するための研修を中学校教師に対して行った。この研修により、教師は暴力や虐待から自らを守るための教育を生徒に行うことができるようになった。

SBCC戦略：包括的アプローチ

プラン・インターナショナル・ネパールは、人身取引と闘うためには、単なる啓発では不十分であり、行動変容を促す行動が不可欠であると認識している。プロジェクトにおけるSBCC戦略は、コミュニティ、国家機関、ユースのキャンペーン担当者を協力的に関与させることで、啓発を超えるよう綿密に設計された。

影響力のある主要メッセージ

ステークホルダー、パートナー、政府関係者との広範な協議を通じて策定されたこの戦略には、一貫性を持たせるために、革新的な手法と特性に基づいたメッセージが取り入れられている。社会生態学的モデルに基づいて構築されたこの戦略は、子どもとユースを主要な対象としており、6つのメッセージテーマで家族、コミュニティ、政府機関に働きかけている。戦略的アプローチ-情報提供、関与、対応-を採用した同戦略は、コミュニティ活性化、安全第一の取り組み、さまざまなメディアを通じた影響力対策など、さまざまなプログラムを紹介している。

持続的な効果をもたらすSBCCの実施

SBCCの実施は極めて重要であり、啓発のみならず、意識を高め、既存の規範や行動の変革を促すことを目的としていた。SBCCのセッションは、理解を深め、効果的な方策を導き、ユースに力を与え、人身取引問題に対する認識を促進するために企画された。

人身取引撲滅のための包括的アプローチ

人身取引の複雑さを認識し、プラン・インターナショナル・ネパールの SBCC 戦略は、社会生態学的モデルに従いながら、様々なレベルの影響に関与している。個人の影響力、家族や対人関係レベル、コミュニティの関与、そして社会全体に焦点を当てている。安全第一プログラム、国家主体強化プログラム、コミュニティ活性化プログラムなどの中核的プログラムは、関係者が人身取引に対して行動を起こせるよう力づけるために連携している。

主な成果と活動

SBCCの主な成果には、人びとが人身取引のリスクと傾向を特定する能力、啓発活動への家族やコミュニティの積極的な参加、コミュニティ啓発に従事する十分な情報を得た政府レベルの関係者などが含まれる。活動は、オンライン安全プログラムからコミュニティ活性化活動まで多岐にわたったが、これらはすべて、人身取引と効果的に闘うための多面的で力強いアプローチに貢献している。

行動変容の対象者

SBCC戦略は、コミュニティ内の行動変容の引き金となる方法的プロセスを重視する。情報格差に対処し、参加者を積極的に巻き込み、人身取引の状況に対してタイムリーで正しい対応を促す。主な対象者は、人身取引の危険に直接さらされている脆弱な集団、特に12～17歳および18～24歳のユースと、家族、コミュニティ関係者、国家関係者を含む影響力のある人びとである。

主要キャラクターと多様なコミュニケーションチャンネル

SBCCのビデオは、特にユースの注目を集める上で重要な役割を果たした。Maya、Udaya、Didi、Adakshya Jyu、Rajat、Police Daiが主演として登場し、さまざまな視点を代弁し、SBCCのジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチに貢献している。短編ビデオ、壁画、開発演劇、ラジオドラマ、オンラインメディア、路上劇、ネパール語や異なる地域の言語によるアニメシリーズなど、多様なコミュニケーションチャンネルは、人身取引に関連するリスクについて教育し、啓発するための包括的かつ魅力的なアプローチを提供した。

理解を深め、コミュニティを力づける

参加者のデータを分析したところ、理解と対応に顕著な前向きな変化が見られた。意識の向上、緊急対応意識の向上、コミュニティの考え方の変化などが、観察された成果である。SBCC戦略はコミュニティに力を与え、理解、意識、積極的な参加に前向きな変化を促し、対象地区で影響力のある成果をもたらす。

コミュニティ参加と影響評価

SBCC戦略の実施では、実施パートナー、子どもクラブ、ユース集団、政府レベルのアクターが重要な役割を果たした。さまざまなプログラムを通じてコミュニティの関与が促進され、影響評価では、意識の向上、教育の浸透、人身取引に対する幅広い理解が明らかになった。

AI技術を活用して人身取引のリスクを啓発： Maya Chatbot

プラン・インターナショナルとTangible AIとの画期的なコラボレーションにより、PROTECTプロジェクトは、人身取引との闘いにネパールのユースを参加させ、力づけるためにAI技術を活用したMaya chatbotを導入した。Facebook Messengerを通じて配備されたMayaは、PROTECTの働きかけプログラムを拡大・補完する重要な要素となり、人身取引の話題を身近で引きつけるものとした。

Mayaの影響力のある機能: Maya chatbotは、2020～23年の間に4つのフェーズに分けて運用され、2万2,000人超のユーザーに利用された。このAI主導の取り組みは、ネパールのユースに人身取引、危険な移住、オンラインの安全に関する重要な情報を提供することを目的としていた。Mayaは従来のアプローチを超えて、簡潔な情報モジュール、クイズ、自ら選択する冒険ストーリー、ビデオを提供し、効果的にユーザーを教育し、鼓舞した。

Facebook Messengerを通じた利用可能性: ネパールの市民、特にユースの間でFacebook Messengerが人気であることから、Mayaはこのプラットフォームで戦略的に実施された。ユーザーはFacebookのページ(maya.to.protect)を通じてMayaにアクセスし、啓発と会話の開始を促した。その他の方法としては、ユーザーがFacebookのプロフィールでリンクを共有したり、Facebook広告を標的としたりした。

構造化されたコミュニケーションとユーザーとの交流：Mayaのメッセージには予め計画された文章があり、ユーザーが選択するためにボタンオプションが表示され、双方向的で魅力的な体験を生み出す。ユーザーは応答をタイプすることもでき、より動的なやりとりを可能にする。Mayaチームは自然言語理解（NLU）技術を活用し、chatbotがユーザーの自由形式のメッセージを理解し、効果的に応答できるようにした。

コンテンツの進化とユーザー関与：Mayaのコンテンツと利用者が拡大するにつれ、完了したコンテンツの数は2020年の33ユニットから2023年には3,894ユニットへと急増した。ユーザーは、特に「人身取引」モジュールにおいて、一般的な啓発情報や安全に関するヒントに強い関心を示した。

NLUによるユーザーの意図の理解：Mayaの高度なNLU技術は、ユーザーがテキストメッセージで言及したトピックの理解を可能にした。このシステムは、スモールトーク、FAQ、その他の会話など、自然言語のテキストメッセージに含まれる60のトピックや意図に対する応答をサポートしている。この機能により、Mayaはユーザーの目標に合わせて効果的に応答を調整することができた。

ネパールのユースをカブける：Maya chatbotは2万2,000人超のユーザーを惹きつけることに成功し、好意的な評価を得ているが、これは人身取引のような重大な問題に対する認識を高める上で、AI主導の解決策が威力を発揮することを裏付けている。

(Maya AI Chatbotの文献およびデータソース: Greg Thompson著「Raising Awareness of Human Trafficking in Nepal through an AI Chatbot」、Maria DyshelおよびHobson編集)

नमस्ते ! म हूँ माया ।

मानव बेचबिखन र ओसारपोसारका बारेमा जान्न हामी सँग कुरा गरौं ।
मेसेजरमा टाईप गर्नुहोस् . . .

Maya.to.protect

Maya - माया
Active now

सूचना

म सिकन चाहन्छु

विकल्पहरूमध्ये एउटा छान्नुहोस् वा "मलाई भयो" मा ट्याप गर्नुहोस्

मलाई भयो

PLAN INTERNATIONAL

रोकथाम नै समाधान
#togethertoendchildtrafficking

मायासँग कुरा गरौं
Maya.to.protect

<https://www.facebook.com/Maya.to.protect/>

背景: ネパールにおける人身取引

深刻な問題: 人身取引は重大な人権侵害であり、国境を越え、さまざまな背景を持つ人びとに影響を及ぼす差し迫った世界的な問題である。人身取引は、売春宿に売られる女の子や女性という固定観念を超えた、多面的かつ広範な問題である。さまざまな形態の搾取が含まれ、ジェンダー、年齢、背景を問わず、あらゆる人に影響を及ぼしている。

国の背景: ネパールでは、人身取引は特定の形態に限定されるものではなく、広範な人びとに影響を及ぼしている。ネパールの人身取引には、性的搾取、強制労働、早すぎる強制された結婚、臓器取引など、複数の搾取形態がある。

危険な移住: より良い機会への期待に駆られ、多くは人身取引業者によって斡旋される危険な移住を行う個人が多い。男性や子どもを含むこうした移民は、移動中や目的地に到着後、搾取の対象となりやすい。ネパールの人身取引の大部分は、危険な移住の状況で発生している。多くのネパール人は、経済的な苦境に追い込まれ、海外に機会を求めることが多いため、移動中や目的地で人身取引の被害に遭いやすい。

国際的な側面: 人身取引は、国境を越えた世界的な問題である。人身取引業者は、海外で雇用機会を求める移民の弱みにつけ込むことが多い。ネパールと近隣諸国、特にインドとの国境を越えた人身取引は大きな懸念事項である。ネパールの男性、女性、子どもは、性的人身取引、さまざまな分野での労働搾取、早すぎる強制された結婚など、搾取の危険にさらされている。

経済的要因: 労働搾取は人身取引の重要な一面であり、世界的な供給網と関連している可能性がある。農業や製造業などでは、悪徳な雇用主が労働者の脆弱性や法的保護の欠如を悪用する可能性がある。

ジェンダーと年齢の多様性: 女性と女の子が性的搾取の標的にされるのが一般的だが、男性や男の子も強制労働の犠牲になる可能性がある。さらに、子どもは児童兵、児童労働、強制的な物乞いなど、さまざまな形態の人身取引の対象となる可能性がある。

オンラインの脆弱性: 他の多くの国と同様、ネパールでも、デジタル・プラットフォームを利用するユースは、オンラインで人身取引される危険性が高まっている。人身取引業者は彼らのオンライン上の存在を悪用し、ソーシャルメディアやコミュニケーション・アプリを通じて彼らを欺いたり、勧誘したりする可能性がある。

偽装採用: ネパールのユースは、オンライン・プラットフォームを通じて、偽りの求人や機会を標的にされ、労働者人身取引、早すぎる強制された結婚、性的搾取など、さまざまな形で搾取される可能性がある。



Until we are all equal

**Plan International Nepal
Country Office**

Maitri Marg, Bakhundole, Ward No. 3, Lalitpur
P.O Box: 8980, Kathmandu Nepal
Phone: 977-1-5535580/5535560
www.plan-international.org/nepal

West Regional Office- Surkhet

Ward. No.8, Birendranagar Municipality
Surkhet, Karnali Province, Nepal
Tel: +977-83-523007

East Regional Office- Janakpur

Ward. No. 4, Bishahara Chowk
Dhanusha, Province no.2, Nepal
Tel: +977-41-590050

Find us on:

-  facebook.com/PlaninNepal
-  [@plannepal](https://twitter.com/plannepal)
-  youtube.com/Plannepal
-  [plan_nepal](https://instagram.com/plan_nepal)